

## C-2. 「子育てに関するアンケート調査」結果報告

千賀悠子・齋藤幸子・宮原 忍・大賀英史  
(日本子ども家庭総合研究所)

### 調査の目的

次世代を生き育てるためには、現在、何が必要とされているのか。今後の家庭育児支援策のサービス内容について考察するための資を得ることを目的として調査を行った。

1) 現在子育て中の家庭において、次世代をどのように育てているのか子育ての実態を明らかにする。またその背景として、夫婦関係などの家庭生活、親とその親との関わり、親が育ってきた頃のことなどとの関連をみる。

2) 現在の親は、どのような次世代を育てたいと考えているのか価値観を調べる。また、その価値観はどのように形成されてきたのか、<祖父母--親--子ども>という縦の関係で、<次世代を生き育てること>に関する価値観がどのように伝承・育成されているのかを明らかにする。

以上により、現代の家庭における次世代育成の実態を把握し、今後の子育て支援の在り方について、施策や制度などのハード領域のみならず、サービスの内容や提供の方法などソフト領域について検討し、実効ある母子保健サービス・子育て支援策の方向性を提示する。

### 調査方法と対象

#### 1 調査内容

調査の内容は以下のようになっている。

##### 1) 対象の属性

##### 2) 子育ての実態

- 子どもに関する心配事
- 子どもとの関わり
- 子育てをしてからの対象者自身の変化
- 子どもをもつことについて

- 子どもの世話と家庭生活について

#### 3) 親世代との関係と価値観の継承

- 対象者とその親の経済的・心理的關係について

- 対象者が育った環境について

- 価値観の世代間継承

生き方--社会性(規範性・責任感・自立性)

人生観・考え方

他者との接し方・対人關係のあり方

家族観--夫婦關係

子どもとの關係

親との關係

家族の協力

暮らし方

伝統観--家庭や地域の習わしなどの継承

#### 2 調査方法

保育施設に子どもを通わせている保護者を対象として、施設における留め置き法によるアンケート調査(一部、郵送による個別回収)を行った。

調査票配布数は5,933世帯である。在園児の各世帯に「父親用調査票」および「母親用調査票」を各1部計2部ずつを配布し、一人親であることが分かっている家庭には、いずれか1部を配布した。なお、調査票の内容は父母共通とした。

調査場所は、首都圏および中核都市を中心に、人口増加率、生産人口割合、産業構造などを考慮し、今後の出生率増加が期待できると考えられる活力ある地域を選定した。この場合、各地域内では可能な限り、乳児保育や延長保育など多角的に保育を行っている施設を選び、多様な

家庭が対象になるよう配慮した。調査場所としては、調査協力を得られた施設、全国64カ所の公立・私立保育園および2カ所の私立幼稚園、計66カ所である。調査場所リストは本稿末尾の資料編に掲載した。

### 3 調査期間

1998年12月～1999年1月である。

### 4 回収率および内訳

回収したアンケートは世帯数で4,501世帯（回収率75.9%）、対象者数で8,087人（男性3,734人、女性4,353人）であった。世帯数の内訳は以下の通りである。なお、一人親世帯とは「現在結婚していない」と答えた例とした。

二人親世帯	3,922
一人親世帯（男性）	40
一人親世帯（女性）	521
不明	18
総世帯数	4,501

## 結果と考察

### 1 対象の属性

回答者数は男性3,734名、女性4,353名であった（表1-1 性別）。うち夫婦ともに回答が3,586組、2人親世帯の男性のみ回答が101名、2人親世帯の女性のみ回答が235名、1人親世帯の男性が40名、女性が521名であった。婚姻関係が不明の単独回答者は男性7名、女性11名であった。全体の男女別集計には、以上のすべての回答者を含め以後、対象者と称す。

その他の属性については資料編に掲載した表1-2～表2-2を参照されたい。

### 2 子育ての実態について

本項では、現在の家庭で乳幼児がどのように

育てられているのかを報告する。また、対象者および子育てを取り巻く現在の生活実態を明らかにする。親世代との関係や価値観の継承に関する分析へと繋がる基礎データである。

### 2-1 子どもの健康と心配事

多くの対象者は、子どもの「からだやこと」のことなどについて心配事を抱えながら子育てをしている

#### 1) 子どもの健康状態

自分の子どもは「健康」であるとした対象者は男性91%・女性89%、「病気がち」は男女とも6%、「長期にわたる医療や支援が必要」としたのは男性3%、女性4%であった。「子どもは健康」と言えない人が全体の約10%みられた。（表2-3）

#### 2) 子どもに関する心配ごとの有無

子どもに関する心配ごとについて「からだ」「こころや行動」「その他生活上のこと」の3項目を設問し、それぞれ「心配なことがある」「心配なことが少しある」「心配なことはない」の3選択肢から回答を得た（表2-4）。「心配なことがある」「心配なことが少しある」の合計した各項目心配事ありの割合は以下の通りであった。

- 男性41%・女性48%が子どもの「からだのこと」について、心配ごとを持っていた。
- 男性44%・女性56%が「こころや行動のこと」について心配ごとを持っていた。
- 男性40%・女性49%が「その他生活上のこと」について心配ごとを持っていた。

ほぼ半数の対象者が子どもに関する何らかの心配ごとをかかえており、女性の割合が男性よりやや高かった（図1-1～1-3）。また、3項目中「心配なことがある」「心配なことが少しある」の6ヶ所どれかを1ヶ所以上選択した男性は62%、女性は74%であった。前項の設問

で、自分の子どもは「健康」あるでとした対象者は90%であったが、多くの対象者は子どもの体や心について心配事を抱えながら子育てをしていることが明らかとなった。

## 2-2 子どもとの関わり

### 1) 日常の子どもとの関わり方

多くの対象者が愛情を表現するなど好ましい養育行動をとっているが、関わりの内容は女性が男性より多様である。

子どもを養育する姿勢・養育行動の傾向を知る目的で、子どもとの日常の関わり方を8項目を設問し、「いつもそうする」「時々そうする」「あまりそうしない」「しない」の4選択肢から回答を得た。(表2-5)(図2)

全体の傾向としては、8項目中「いつもそうする」割合が男女とも最も高いのは、「5.抱きしめたり、かわいいといたり愛情表現をいつもする」で、男性50%・女性73%であった。ついで「8.家の中は、子どもが自由に安心して遊べるようになっている」男性50%・女性65%であった。一方、愛情表現をしなかったり、子どもと遊ばないと答えた対象者は各項目とも全体の1~2%であった。

全体に女性の「いつもそうする」と「時々そうする」と答えた割合が男性より高く、男性は「あまりそうしない」「しない」が女性より高かった。特に、以下の4項目は「いつもそうする」と答えた女性の割合が顕著に高かった(男女差12%~23%)。女性は男性に比べて、より多く、質的にも多様に子どもと関わっているといえる。

<女性の「いつもそうする」割合が男性より高かった4項目>

- 「2.子どもが何かができなくて困っている時は、励ましたりアドバイスする」男性31%・

女性47%であった。

- 「4.子どもの話すことに耳を傾け、よく聴くようにしている」男性48%・女性60%であった。
- 「5.抱きしめたり、かわいいといたり愛情表現をする」男性50%・女性73%であった。
- 「8.家の中は、子どもが自由に安心して遊べるようになっている」男性50%・女性65%であった。

一方以下の3項目は、「いつもそうする」の割合が男女とも10%以下と低く、その差は小さかった。「時々そうする」は女性の割合がやや高かった。

<「いつもそうする」男女差の小さかった3項目>

- 「1.子どものやることは危なっかしいので、つい手を出したり口を出す」は男性8%・女性10%であった。
- 「3.親が決めた通りに行動するように、子どもに指示している」は男性8%・女性6%であった。
- 「7.汚したり散らかしたりするような遊びは、させないようにしている」は男性4%・女性2%であった。

<男女差のなかった項目>

- 「6.出来るだけ子どもと遊ぶようにしている」では、男女の差がなく、「いつもそうする」は男女ともに38%、「時々そうする」男性49%・女性51%であった。

このように、多くの対象者は子どもに対して、抱きしめるなどの愛情を表現したり、家の中を自由に安心して遊べるように配慮しており、乳幼児に対して好ましい養育行動をとっているといえる。

養育行動によって男女差があったり、受容的でない養育行動をとる人がみられることの背景については、現在の生活環境との関連のみならず、個人差としての家族歴・親世代からの継承

などとの関連を、本報告の他項で明かにしていきたい。

## 2) 子どもと過ごしている時の気持ち

男女ともに「子どもが可愛い」など肯定的感情をもつ人が多く、否定的感情は女性の時々もつ割合が男性より高かった。

子どもと過ごしている時に感じる気持ちを < 肯定的感情 > 4 項目と < 否定的感情 > 4 項目の計 8 項目について、「いつもそう思う」「時々そう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の 4 選択肢から回答を得た。(表 2-6)(図 3-1、3-2)

< 肯定的感情 1 ~ 4 > について「いつもそう思う」と「時々そう思う」の合計は次の通りである。

- 「1. 充実感がある」は男性 93%・女性 92%と同じ割合で高率であった。
- 「2. 楽しい」は男性 97%・女性 97%と同じ割合で高率であった。
- 「3. 面白いことや発見がある」は男性 95%・女性 98%といずれも高率であった。
- 「4. 子どもが可愛い」は男性 98%・女性 98%とほとんどの人が子どもは可愛いと感じていた。

< 否定的感情 5 ~ 8 > については「いつも思う」割合は男女ともわずかであるので、「時々思う」割合を示す。

- 「5. つまらない」は男性 7%・女性 12%と女性の割合がやや多かった。
- 「6. 大変で、どうしたらよいかわからない」は男性 22%・女性 32%と女性の割合が多かった。
- 「7. わずらわしくて、イライラする」は男性 29%・女性 48%あり、女性が多かった。
- 「8. 子育ての犠牲になっている感じがする」は男性 11%・女性 21%あり、女性が多かった。

肯定的感情の 4 項目については男女ともに、大半の人が「いつも」または「時々」感じており、多くの人が子どもを過ごすことに対して肯定的イメージを持っているといえよう。しかし、「思う」程度には差が認められ、「1. 充実感がある」「2. 楽しい」は男性が、「3. 面白いことや発見がある」は女性が「いつも思う」割合がやや多かった。

否定的感情の 4 項目「5. つまらない」「6. 大変で、どうしたらよいかわからない」「7. わずらわしくて、イライラする」「8. 子育ての犠牲になっている感じがする」では「いつも思う」割合は男女とも非常に少ないが、「時々思う」は女性で 12~48%の回答があり、男性に比べて割合が高かった。(図 4)

以上、子どもと過ごしている時、ほとんどの人が肯定的感情を持っていたが、時には否定的感情を持つことのある人が、かなりの割合でいることが明らかになった。特に女性は、「6. 大変で、どうしたらよいかわからない」時々思う 32%、「7. わずらわしくて、イライラする」時々思う 48%など、男性に比べ否定的感情を持つことが多かった。これは、前項 1) の「子どもとの関わり方」から分かるように、女性が子どもにより多く関わっていること関連していると考えられる。

## 3) 子育てによる犠牲感について

何が犠牲になっているかでは、女性の方が多くのことが犠牲になっていると感じている

犠牲についてどのように思うか

前項 2) の「8. 子育ての犠牲になっている感じがする」の補遺設問「犠牲についてどのように思いますか」では、全体の 23% (男性の 17%・女性の 28%) から回答を得た。回答のあった 1,880 名 (男性 642 名、女性 1,238 名)

を%ベースとすると、「犠牲感はあるが、苦にならない」が男性 55%・女性 47%、「しかたがないと思うので、がまんしている」男性 43%・女性 49%、「子育てをすることは限界にきている」男女ともに 1%未満であった。(表 2-SQ6-1)

#### 犠牲の内容

子育ての犠牲になっていることの内容は「どのようなことが犠牲になっていると感じますか」を複数回答で尋ねた。前問と同様に犠牲になっていると感じている対象者を%ベースとすると、「仕事や学業」男性 32%・女性 54%、「趣味や娯楽」男性 55%・女性 50%、「自由や気楽さ」男性 58%・女性 69%、「配偶者(パートナー)との関係」男性 19%・女性 14%であった。「仕事や学業」と答えた女性の割合が男性に比べ顕著に高く、女性全体(3,821名)からみると 15%に当たっている。また、「自由や気楽さ」は女性、「配偶者(パートナー)との関係」は男性の方が割合が高かった。複数回答選択件数は男性 1,066 件に対し、女性 2,361 件と女性が相対的に多くなっていた。(表 2-SQ6-2)

子育ての犠牲になっていると感じている人のうち、約半数は「苦にならない」、約半数は「しかたがないのでがまんしている」と答えており、犠牲感のある人のほとんどは、自分の気持ちをコントロールしながら子育てに取り組んでいるといえる。しかし男女を比べると、女性は「我慢している」が「苦にならない」よりやや多く、男性は反対に「苦にならない」がやや多かった。また犠牲の内容については「仕事や学業」をはじめ、女性の方が多くの項目をあげており、女性が犠牲をがまんしている度合いは男性より強いといえよう。

### 2-3 子育てをしてからの自分自身の変化について

プラス面・マイナス面ともに女性が感じている割合が高かった。

子育てをして自分が成長したと感じる人がいるが、その場合の成長とはどのような内容であるのか。子育てが成人男女に及ぼす影響を明かにする目的で、「あなたは子育てをしてからの自分自身をどのように感じていますか」を尋ねた。10 項目について、「そう思う」「以前からそうなので、変わらない」「そう思わない」の 3 つの選択肢からそれぞれ 1 つの回答を得た。「そう思う」と答えた男女別割合を以下に示す。

- 「1. 考えが柔軟になった」男性 41%・女性 58%
- 「2. 他人の立場や気持ちがくみ取れるようになった」男性 40%・女性 62%
- 「3. 困難なことも運命的なこととして、受け止められるようになった」男性 36%・女性 56%
- 「4. 自分はなくてはならない存在だと気づいた」男性 61%・女性 76%
- 「5. 物事に積極的になった」男性 21%・女性 33%
- 「6. ささいなことが気にならなくなった」男性 24%・女性 39%
- 「7. 感受性が豊かになった」男性 34%・女性 48%
- 「8. 思い通りにならないことがあることに気づいた」男性 40%・女性 59%
- 「9. 子育てに向いていないことに気づいた」男性 8%・女性 17%
- 「10. 子ども好きになった」男性 34%・女性 36%

すべての項目で女性の「そう思う」割合が男性より高かった。「子ども好きになった」を除

いて、その差は10%以上と顕著な項目が多い。逆に「以前からそうなので、変わらない」「そう思わない」は「子ども好きになった」を除いて、女性より男性の割合が高かった。子育てをしてからの自分自身の変化は女性がより多く感じており、人としての成長と考えられるプラス面の変化を肯定している割合が男性より高かった。一方、子育てにとってはマイナス面といえる「子育てに向いていないことに気づいた」は女性の方が多かった。「子ども好きになった」を「そうは思わない」と否定した割合も男性10%・女性15%と女性が多く、女性はプラス面の変化を感じる一方、マイナス面もより多く感じていた。このことは前項2-2-2)「子どもと過ごしている時の気持ち」と同様、女性がより子育てに関っていることとの関連が考えられる。(表2-7)

## 2-4 子どもをもつことについて

子どもを持つ理由は、男女とも「楽しみ」が第1位である。予定子ども数・希望子ども数ともに女性が少なかった。

### 1) 子どもをもつ理由

子どもをもつ理由については、子どもとは対象者にとってどのような存在であるのか・子どもへの継承がどれくらい意識されているかを知る目的で6項目に限定し、「はい」「いいえ」いずれかの回答を求めた(表2-8)。以下「はい」と答えた割合を示す。

- 「1.子どもを生き育てることは、よい経験だと思うので」男性76%・女性89%
- 「2.子どもを生き育てることは、男としてまたは女としての自分の存在感が感じられるので」男性62%・女性65%
- 「3.子どもに継承したいもの(技能や伝統など)があるので」男性29%・女性19%
- 「4.子どもは楽しみやうるおいを与えてくれるので」男性85%・女性89%

- 「5.子どもは活気があるので」男性76%・女性78%
- 「6.子どもはほしくないが、大人として認められたかったので」男性2%・女性1%

男女ともに、70%以上の高い肯定率を示したのは「4.子どもは楽しみやうるおいを与えてくれるので」、「1.子どもを生き育てることは、よい経験だと思うので」、「5.子どもは活気があるので」であった。「楽しみやうるおい」と「よい経験」で女性の肯定率がいずれも89%といことが特徴であった。次いで、「2.子どもを生き育てることは、男としてまたは女としての自分の存在感が感じられるので」が男女とも60%台であった。子どもの存在が如何に男性として・女性としてのアイデンティティーを支えているかを示す数字である。

「3.子どもに継承したいもの(技能や伝統など)があるので」は男性29%・女性19%と多数派ではなかったが、男性が女性より高かった。

多くの人にとって、子どもは楽しみ・潤い・活気を与えてくれる存在であり、子どもを生き育てることはよい経験だとして、子どもの存在や子育ての意義が肯定的に評価されていた。女性は男性に比べ、より肯定率が高かった。継承したいもののためや、大人として認められたいという手段的な理由をあげた人は少数であった。

### 2) 予定子ども数

「2人」が最も多く男女とも52%、「3人」が男性27%・女性25%、「1人」が男性9%・女性13%であった。予定子ども数の平均値は男性2.30人・女性2.21人で男性が多かった。(表2-9)

第11回出生動向基本調査(国立社会保障・人口問題研究所)によれば、夫婦の予定子ども数全国平均は2.11人であるので、本調査対象

は多い傾向がある。

### 3) 希望子ども数

「3人」希望が最も多く男性43%・女性45%、「2人」が男性36%・女性33%、「4人」が男性5%・女性8%であった。「本当は知らない」としたのは男性2%・女性3%であった。本当は知らないを0人として算出した希望子ども数の平均値は男性2.72人・女性2.62人であった。(表2-10)

## 2-5 子どもの世話と家庭生活について

子どもの世話は祖父母に頼る比重が大きい。夫婦の家事分担率は低く、家庭生活の満足度は女性が低い。

### 1) 日中、子ども(乳幼児)の世話を主にしている人について

複数回答で設問し、世帯集計を行った。回答の多い方から、「保育園などの保育者」84%、「女性対象者自身」43%、「祖父母」17%、「配偶者(パートナー)」12%、「幼稚園の先生」7%の順であった。その他、ベビーシッターなどは1%未満であった。(表3-1)

### 2) 子ども(乳幼児)の世話を一時的にできない時、頼む相手について

「祖父母(自分または配偶者の親)」に頼む割合が、男性71%・女性76%と非常に高く、公的サービスに頼らない地縁・血縁による比重が大きかった。

公的なサービスとしては、今回の調査場所の一部で行われている「一時的保育サービス」男性14%・女性14%などがあげられた。「ベビーシッター」は男性3%・女性4%、「頼める人がいない」は男性3%・女性4%にみられた。(表3-2)

### 3) 家事の分担

「あなたの家庭では、家事をしているのはどなたですか」の設問では、女性が「自分がしている」と答えた割合が78%、男性が「配偶者(パートナー)がしている」と答えた割合は75%と、一致度はかなり高かった。「夫婦で分担を決めてしている」は男性16%・女性12%でやや男性が多かった。

1世帯で男女両方の回答があった3,586組についてのみの集計では、女性回答「自分がしている」78%、男性回答「配偶者(パートナー)がしている」76%、「夫婦で分担を決めてしている」は男性16%・女性13%であった。本調査対象は共働き家庭が大半を占めるにもかかわらず、夫婦での家事分担が12%程度しか進んでいない現状が明らかとなった。(表3-3)

### 4) 配偶者(パートナー)との関係について

配偶者(パートナー)との関係や考え方について5項目を「はい」「いいえ」の選択設問とした(表3-4)。ここでは、1世帯で男女両方の回答があった3,586組についての結果を以下に示す。「はい」と答えた人の割合は以下の通りで、夫婦間でかなり一致していると考えられる。

- 「1 私たちの子育てに関する意見は一致している」男性68%・女性71%
- 「2 私たちは家族にとって大事なことを話し合っている」男性73%・女性72%
- 「3 私たちはどちらかというところ協力しあっている」男性82%・女性81%
- 「4 私たちは喧嘩をしたり感情をぶつけあうことがよくある」男性52%・女性53%
- 「5 私たちはどちらかというところ仲のよい夫婦だ」男性82%・女性79%

「3.協力しあっている」「5.仲のよい夫婦」と答えた割合が男女とも80%前後と高率で、夫婦関係は良好であるととらえている対象者が多い。「4.喧嘩をしたり感情をぶつけあうこ

とがよくある」は約半数みられるが、必ずしも関係性の悪さの表われとは言えず、コミュニケーションの一側面である場合もある。しかし、後述する子育て負担感のある対象者群では、「4. 喧嘩をしたり感情をぶつけあうことがよくある」の割合は男女とも高くなっている。

## 5) 現在の家庭生活の満足度

「現在の生活をどのように感じていますか」を「満足」「やや満足」「やや満足していない」「満足していない」の4段階で設問した。男性の満足度が女性より高く、女性は満足していないと答えた割合が男性より高かった(表3-5)。「満足」男性46%・女性33%、「やや満足」男性40%・女性45%、「やや満足してない」男性9%・女性16%、「満足していない」男性4%・女性7%であった。

以上男女別集計結果から、多くの項目で男女の差が認められた。その中で、女性が男性より、多様な感情をもちながら、子育てを行っていることが明らかとなった。たとえば、「子どもが可愛い」といつも思う人は男女とも80%を越えていながら、「煩わしくてイライラする」と時々思う女性は48%であった。このような子育てに両義性があることは、女性がより強く感じており、犠牲をがまんしている割合も高かった。そして、家庭生活への満足度は女性が低く、予定子ども数・希望子ども数、ともに女性の方が少ない結果であった。

## 2-7 現在の生活に満足していない群の子育て実態について

子どもに関する心配事が多く、子育てに負担感がある。夫婦関係は協調性・親密性が低く、夫婦仲がよいとした割合は50%に満たない

対象者の現在の生活に関する満足感と子育ての関連を次の方法で検討した。「あなたは現在の生活をどのように感じていますか」(表3-5)の設問で、「満足」または「やや満足」を選択した男性3,215名・女性3,350名の計6,565名を「現在の生活：満足群」、「満足していない」または「やや満足」を選択した男性461名・女性967名の計1,428名を「現在の生活：不満群」として集計を行った。

「現在の生活：不満群」を「現在の生活：満足群」と比較すると、以下の傾向が認められた。まず、不満群の男女別集計結果を示し、( )内には満足群を示した。

子どもに関する心配事がある割合が高かった。

- からだのこと：男性15%(9%)、女性15%(9%)
- ところや行動のこと：男性16%(8%)、女性24%(10%)
- その他生活上のこと：男性17%(8%)・女性20%(9%)

特に女性に心配事を感じている人が多く、「心配事が少しある」を加えると、心配事がある女性の割合は「からだのこと」58%、「ところや行動のこと」70%、「その他生活上のこと」65%となり、ところや行動の心配が最も多かった。

養育行動は女性が干渉的な割合が多く、男女ともに励ます・愛情表現をする・一緒に遊ぶなどの関りが少なかった。

- 「子どものやることは危なっかしいので、つい手を出したり口を出す」は女性の「いつもそうする」割合が27%(10%)と多く、やや干渉的であった。
- 「子どもの話すことをに耳を傾け、よく聴くようにしている」は「いつもそうする」が男性41%(49%)・女性54%(62%)と、男女とも「いつもそうする」が少なかった。

- 「抱きしめたり、かわいいといたり愛情表現をする」は男性の「しない」と「あまりしない」の合計が 17% (8%) と多かった。女性では差がなく、ともに 97% が愛情表現をしている。しかし、不満群は「いつもそうする」が 67% (75%) と少なかった。
- 「できるだけ子どもと遊ぶようにしている」は「あまりそうしない」と「しない」の合計が、男性 20% (10%)・女性 16% (10%) と男女とも子どもと遊ぶことに消極的傾向がみられた。
- 「家の中は自由に安全に遊べるようにしている」は「あまりしない」と「しない」の合計が男性 25% (13%)・女性 13% (6%) と男女とも多かった。
 

「子どもと過ごす時の気持ち」は肯定的な感情を表す項目では、「いつもそう思う」と「時々そう思う」の合計が満足群・不満群ともに、また男女ともに、ほとんどの項目で 90% をこえており、「充実感がある」のみ不満群の男女が 80% 台であった。しかし、思う程度をみると、満足群は「いつもそう思う」の割合が、不満群は「時々そう思う」の割合が相対的に多かった。「いつもそう思う」の割合は次の通りである。

  - 「充実感がある」男性 35% (53%)・女性 31% (48%)
  - 「楽しい」男性 45% (62%)・女性 41% (57%)
  - 「面白いことや発見がある」男性 38% (54%)・女性 52% (63%)
  - 「子どもが可愛い」男性 75% (86%)・女性 74% (84%)
- 「子どもと過ごす時の気持ち」は否定的な感情を表す項目では、「いつもそう思う」割合は満足群・不満群ともに、また男女ともに、いずれの項目も 3% 以下であったが、「時々思う」は不満群が多かった。「時々思う」の割合は次の通りである。
  - 「つまらない」男性 15% (7%)・女性 22% (10%)
- 「大変でどうしたらよいか分からない」男性 34% (22%)・女性 47% (30%)
- 「煩わしくていらいらする」男性 40% (28%)・女性 61% (46%)
- 「子育ての犠牲になっている気がする」男性 23% (11%)・女性 35% (19%)
 

犠牲については「がまんしている」が男性 17% (6%)・女性 25% (11%) と多かった。子育てしてからの自分自身の変化については、次のように、プラス面として肯定的に捉えている人が少なく、子育てにとってマイナス面といえる項目に「はい」と答えた人が多かった。

<プラス面>

  - 「考えが柔軟になった」男性 32% (43%)・女性 49% (61%)
  - 「自分がなくてはならない存在だと気づいた」男性 48% (63%)・女性 72% (78%)
  - 「他人の立場や気持ちが分かるようになった」男性 32% (42%)・女性 57% (63%)
  - 「感受性が豊かになった」男性 20% (36%)・女性 42% (50%)

<マイナス面>

  - 「子育てに向いていないことが分かった」男性 17% (6%)・女性 29% (14%)
  - 「子どもが好きになった」に「そうは思わない」と答えた人が多かった。男性 15% (9%)・女性 23% (12%)

子どもを持つ理由では、6 項目中 4 項目で、男女とも「はい」の選択率が低く、子どもを持つことに意義を感じる割合が少なかった。

  - 「子どもを生み育てるのは、よい経験だと思うので」男性 68% (78%)・女性 78% (89%)
  - 「男として、女としての自分の存在感が感じられるので」男性 54% (64%)・女性 49% (65%)
  - 「子どもは楽しみやうるおいをあたえてくれ

るので」男性 79% (87%)・女性 65% (89%)

- 「子どもは活気があるので」男性 66% (78%)・女性 57% (78%)

予定子ども数と希望子ども数が少なかった。予定子ども数平均値:男性 2.25 人(2.31 人)・女性 2.10 人 (2.24 人)、希望子ども数平均値:男性 2.61 人(2.73 人)・女性 2.47 人 (2.67 人)であった。「本当はிரない」と答えた割合が、男性 5% (1%)・女性 6% (2%) と高かった。

対象者が一時的に子どもの世話を出来ない時、世話を「頼める人がいない人」が女性 8% (3%) と割合が高かった。

配偶者(パートナー)との関係はシングル(離別・死別・未婚)を除いた不満群の男性 445 名および女性 800 名と満足群の男性 3,194 名および女性 3,014 名を集計した。

夫婦の親密さや協調性をあらわす項目は「はい」と答えた割合が男女ともに低い。

- 「考えが一致している」男性 34% (73%)・女性 39% (78%)
- 「大切なことを話し合っている」男性 44% (78%)・女性 37% (76%)
- 「協力し合っている」男性 59% (86%)・女性 48% (88%)
- 「仲のよい夫婦だ」男性 47% (88%)・女性 37% (89%)

一方、「喧嘩をしたりや感情をぶつけあうことがある」は「はい」と答えた割合が男性 64% (50%)・女性 61% (50%) と男女ともに高かった。

夫婦をで家事分担をしている割合は、男性は 16% (15%) と差がなかったが、女性では 7% (15%) と分担が少なかった。

現在の生活に満足していない群は満足している群に比べ、明らかな特徴が認められた。すなわち、子どもに関する心配事を多く感じていた、子どもとの関りでは、愛情表現が少ない・

子どもの遊びの受容度が低いなどの傾向がみられた。また、子育てや子どもを持つことに意義を感じる割合が低かった。そして、特徴的であったのは夫婦関係であり、夫婦の協調性・親密性を示す項目すべてが不満群の割合が低いことであった。

## 2-7 子育てに負担感のある群について

子どもに関する心配事を多く感じており、自分は子育てに向いていないと感じている割合が高い
---

少子化の要因の一つに、子育て負担の問題があげられている。本調査で、特に子育て負担感の強いと思われるサンプルを抽出し、その特徴や背景を明らかにし、子育て支援策の資料を提供したい。

「子どもを過ごす時の気持ち」(表 2-6)の設問で、子どもと過ごしていて肯定的感情がもてない人、または否定的感情を持っている人を以下の方法で抽出し、「子育てに負担感のある群」として分析した。すなわち、肯定的感情 4 項目「充実感がある」「楽しい」「面白いことや発見がある」「子どもが可愛い」で「そう思わない」、または否定的感情の 4 項目「つまらない」「大変で、どうしたらよいかわからない」「わずらわしくてイライラする」「子育ての犠牲になっている気がする」で「いつもそう思う」の計 8ヶ所のどれか 1つ以上を選択した男性 116 名(全男性の 3.1%)・女性 173 名(全女性の 4.0%)の計 289 名(全体の 3.6%)を抽出し、集計を行った。

子育てに負担感のある群を全体の集計結果と比較すると、以下の傾向が認められた。まず、子育て負担感のある群の男女別集計結果を示し、( )内には男女別全体集計結果を示した。

子どもに健康に関する問題があるとした

人の割合が多かった。

- 病気がち：男性 9% (6%)・女性 10% (6%)
- 長期にわたる医療や支援が必要：男性 4% (3%)・女性 5% (4%)  
子どもに関する心配事がある割合が高かった。
- からだのこと：男女とも 16% (10%)
- ころや行動のこと：男性 16% (9%)・女性 29% (13%)
- その他生活上のこと：男性 20% (9%)・女性 26% (11%)

特に女性に心配事を感じている人が多く、「心配事が少しある」を加えると、心配事がある女性の割合は「からだのこと」61%、「ころや行動のこと」73%、「その他生活上のこと」69%となり、ころや行動の心配が最も多かった。

養育行動は以下のように、干渉的・指示的な割合が高く、励ます・愛情表現をする・一緒に遊ぶなどの関りが少なかった。

- 子どものやることは危なっかしいので、つい手を出したり口を出す：「いつもそうする」男性 19% (8%)・女性 27% (10%)
- 親が決めた通りに行動するように、子どもを指示している：「いつもそうする」男性 22% (8%)・女性 15% (6%)
- 子どもが何かできなくて困っている時は、励ましたりアドバイスする：「あまりそうしない」と「しない」合計で、男性 19% (8%)・女性 10% (2%)
- 抱きしめたり、かわいいといたり愛情表現：「しない」男性 10% (1%)・女性 4% (0.2%)
- できるだけ子どもと遊ぶようにしている：「しない」男性 11% (1%)・女性 5% (0.3%)  
子育てしてからの自分自身の変化については、以下のように、プラス面として肯定的に捉えている人が少なく、子育てにとっ

てマイナス面といえる項目に「はい」と答えた人が非常に多かった。

< プラス面 >

- 自分がなくてはならない存在だと気づいた：男性 46% (61%)・女性 63% (76%)
- 感受性が豊かになった：男性 25% (34%)・女性 31% (48%)
- 「子どもが好きになった」に「そうは思わない」と答えた人が多かった。男性 25% (10%)・女性 40% (15%)

< マイナス面 >

- 「子育てに向いていないことが分かった」男性 32% (8%)・女性 49% (17%)  
子どもを持つ理由では、6項目中4項目で、男女とも「はい」の選択率が低く、「子どもは欲しくないが、大人として認められたい」のみが男性 10% (2%)・女性 5% (1%)と多かった。子どもを持つことに意義を感じる割合が少なかった。
- 「子どもを生き育てるのは、よい経験だと思うので」男性 60% (76%)・女性 78% (89%)
- 「男として、女としての自分の存在感が感じられるので」男性 54% (62%)・女性 49% (65%)
- 「子どもは楽しみやうるおいをあたえてくれるので」男性 66% (85%)・女性 65% (89%)
- 「子どもは活気があるので」男性 60% (76%)・女性 57% (78%)

予定子ども数と希望子ども数が少なかった。予定子ども数平均値：男性 2.26 人 (2.30 人)・女性 2.01 人 (2.21 人)、希望子ども数平均値：男性 2.59 人 (2.76 人)・女性 2.55 人 (2.70 人)であった。

「本当はிரらない」と答えた割合が高い。男性 8% (2%)・女性 17% (3%)

子どもの世話を一時的に頼める人について、女性の回答でみると、「祖父母」65% (76%)などがやや少なめで、「頼める人がいない人」が 14% (4%)と割合が高

い。

配偶者（パートナー）との関係はシングルを除いた男性 92 名および女性 131 名を集計した。夫婦の強調性や親密さをあらかず項目は「はい」と答えた割合が男女ともに低い。

- 「考えが一致している」男性 50%（68%）・女性 53%（70%）
- 「大切なことを話し合っている」男性 58%（73%）・女性 65%（72%）
- 「協力し合っている」男性 73%（82%）・女性 73%（81%）
- 「仲のよい夫婦だ」男性 72%（82%）・女性 68%（80%）

一方、「喧嘩をしたりや感情をぶつけあうことがある」は「はい」と答えた割合が男性 73%（51%）・女性 69%（52%）と男女ともに高かった。

現在の家庭生活の満足度では、「満足していない」が男性 16%（4%）・女性 27%（7%）と多かった。

以上のように、子育てに負担感のある群には明らかな特徴が認められ、負担感の要因と思われる事柄がいくつか浮かび上がった。すなわち、子どもに関する心配事を多く感じており、子育てや子どもを持つことにあまり意義を感じていなかった。特に、自分が「子育てに向いていない」と感じている男性は 32%・女性は 49% みられた。このような内面的な要因に加えて、子どもの世話を一時的に頼める人の不足や夫婦関係など、対象者を取り巻く環境要因が認められた。これらが現在の生活に関する不満感を高め、子どもへの関わり方や子育て負担感に密接に関連していると思われた。

## 2-8 子育て実態について --小括--

子どもや子どもとの生活について、共働き世帯を中心に調べたところ、ほとんどの対象者は

子育てに喜びや意義を見出し、順調に子育てを行っている様子が伺えた。しかし、男女とも約半数は子どもに関する何らかの心配事を抱えており、時には子どもや子育てに対して、「わずらわしい」「犠牲感」など否定的な感情をもつ人も多かった。特に、女性は子どもとの関わりが男性より多い分、子どもや子育てに対する感情が多様で、より肯定的である一方、否定的な側面も見られた。また、昨年度の本調査報告で女性に家庭内のことに関するストレスが高い結果が得られたが、本調査では、女性の家庭生活に対する満足度が低い傾向がみられた。共働きにも関わらず夫婦の家事の分担が進んでいないことも一因と考えられたが、「現在の家庭生活に満足していない群」の検討を行った結果、夫婦の関係性の問題が重要な背景として浮かび上がった。

「子育てに負担感のある群」の分析においては全体との違いが明瞭であり、子どもに関する心配事を感じている割合が多いこと・「子育てに向いていない」と感じるなど子どもや子育てにあまり意義を感じていないこと・子どもの世話を頼める人が少ないことなどが明らかとなった。

以上の子育て実態の把握から、今後の育児支援策として、次の方向性を提示したい。

子どもに関する心配事を軽減することが第一義的に重要である。子どものからだに関する心配事については、健康相談などが支援の軸となるが、本調査対象が主に共働き世帯であることを考慮すれば、当然、休日や夜間にサービスが提供されることが必要である。それが、養育者と子のニーズに応え、かつ有効に利用される施策であると言えよう。

最も多い心配事は「子どものこころと行動」に関することであった。子どもの発達に伴い養育者にとって、多少の心配事が生じることは不可避である。また、表面的な問題が解決しても、主観としての心配は解消されなかったり、些細

なことがなんらかの原因によって心配が増幅される場合がある。これは、90%の人が「子どもは健康である」としながらも、約半数は心配事があるとしていたことから明らかである。その背景要因として、さまざまな理由で養育者が「現在の家庭生活に対する不満感」をもっていることと関連していると考えられた。それらをどう乗り越えて、あるいはどのように折り合いを付けて、実際の子育てに取り組んでいくか、主体である養育者が考え、実行に向けたためのサポートが必要である。特に、夫婦関係については今日的課題である。親子関係を軸にした家族観から、夫婦関係を大切にした家族観への転換が求められているのではないだろうか。

子育ては、長期に渡って命を育む営みであり、子どもを成熟した大人への発達を促す責を負っている。養育者が、さまざまな思いをもっている子育てを側面から支えるためには、養育者の人としての成人期の発達を支え・促す視点が重要ではないだろうか。これが子育て支援におけるハードの提供のみならず、ソフトが必要なゆえんである。

次世代育成力を「社会領域」と「個人領域」さらにそれぞれを「ハード」面・「ソフト」面に整理して考えると、これまでの少子対策は「社会領域」の「ハード」面の充実と「個人領域」の「ハード」面への援助が中心であったと言えるのではなかろうか。「ハード」面のますますの充実も重要であるが、今後の支援策として、社会の次世代育成力を高め、個人の次世代育成力を育てるソフトの提供が望まれる。

( 齋藤幸子 )

### 3 親世代との関係と、価値観の継承

対象者とその親世代の生き方に関する考え方と価値観について検討し、子育てにおいてどのような価値観が大切にされ継承されているのかを考察する。また、対象者の親の価値観などと、子どもである対象者の経済的・心理的自立性や子育ての状況との関連も考察する。

なお、限定質問では該当すべき対象について集計を行った。文中の集計対象者の記載であるが、対象者の男性および女性については男性・女性とのみ表記し、また、対象者あるいは配偶者の親を対象とする場合には親と表記した。

#### 3-1 親世代との経済・心理的關係について

##### 1) 親からの経済的援助と日常生活上の援助

対象者や配偶者の親が健在であるかどうか、そして親の年齢をたずね、対象者自身の親だけでなく配偶者の親からの援助の状態を検討した。今年度は、対象者の経済的・心理的自立性と子育ての状態や、子育ての考え方や価値観について分析を行った。対象者の親の多くは健在であり、対象者が親から何らかの経済的援助を受けている割合が約 30%である。また、対象者の自立性と子育て、あるいは価値観については興味深い結果が得られた。

対象者と配偶者の親の健在と年齢

##### [ 親の健在 ]

- ・男女共に対象者の親が健在な割合は多く、男性の父親が健在73%・母親健在89%、女性の父親が健在79%・母親健在92%である。(表4-1-1、4-1-2)
- ・男女共に配偶者の親が健在である割合も多く、妻の父親が健在74%・母親健在88%、夫の父親健在65%・母親健在80%である。(表4-1-3、4-1-4)
- ・男女共に母親は健在な割合が多い。

##### [ 年齢 ]

- ・対象者の親の年齢は、男性では父親が59歳以下は18%、女性では父親が59歳以下は26%である。男性の母親が59歳以下は30%で、女性の母親が59歳以下の年齢は42%である。女性の母親は、若い年齢層の割合が高い。(表4-1-5、4-1-6)

対象者または配偶者の親からの経済的援助

##### [ 住宅費・金銭・生活費援助 ]

- ・親から住宅費援助・金銭的援助・生活費の援助などの経済的援助を受けているのは、男性では29%、女性では31%である。(表4-2)
- ・現在、対象者が独身(死別、離別など)で子どもとだけ住んでいる場合を、一人親核家族とするが、この一人親核家族(男性16例、女性387例)の対象者が親から何らかの経済的援助を受けている割合は、男性25%・女性22%である。女性の一人親核家族の場合は経済的援助を受けている割合が低い。

##### [ 経済的援助に対する感想 ]

- ・経済的援助を受けて「助かっている」と思っている割合は男性73%・女性76%である(表4-SQ2-1-)。女性の一人親核家族では92%の人が「助かっている」と思っており、その割合は高い。
  - ・また、「親に対して申し訳ない」と思う割合は、男性53%・女性54%であり、「現状ではやむを得ない」と思う割合は男性43%・女性44%である。「親として普通のことをしてくれている(当たり前)」、あるいは「将来、親の世話や援助をするのだからこれでいい」と思う割合は、男性13%・女性11%である。(表4-SQ2-2)
- 対象者または配偶者の親からの日常生活の援助(経済以外の援助)

##### [ 日常生活の援助 ]

- ・親から「身の回りの世話や家事や育児を助けてもらっている」割合は、男性49%・女性54%である。女性の方が、日常生活の援助をしてもらっていると受け止めている割合が高い。（表4-3）
- ・女性の一人親核家族の場合は、51%が親から日常生活の援助を受けている。

#### [ 日常生活の援助に対する感想 ]

- ・親の援助があり「身体的に助かっている」割合は男性85%・女性89%で、「精神的に助かっている」割合は男性84%・女性87%であり、「助かっている」と思っている割合が男女共に高い。（表4 - SQ3-1）
- ・親に対して「申し訳ない」と思う人は男性43%・女性46%であり、女性の方が「申し訳ない」と思っている割合が高い。「親が喜んでやってくれているから」という思いで受けとめている人は男性37%・女性30%であり、男性の割合が高い。（表4-SQ3-2）
- 親に対する経済的・精神的・日常生活・介護などの援助
- ・対象者が親に援助している状況であるが、「経済的に助けている」割合は男女共に17%、「心配事を聞き精神的に助けている」割合は男性39%・女性55%、「日常生活を助けている」割合は男性12%・女性18%、「看病や介護」をしている割合は男女共に6%である。女性の方が精神的に助けたり世話をしている割合が高い。（表4-4）

対象者の親の多くは健在である。女性の母親の年齢層が若いので、育児や生活上援助などが受けられやすい背景があるのではないかと推察される。

乳幼児を持つ対象者が、親から何らかの経済的援助を受けている割合は、約30%である。女性の一人親核家族の場合は、経済的援助を受けている割合が対象全体の女性と比べ低い傾向がある。

育児や家事などの世話を親に頼らざるを得ない状況があるので、日常生活上で親から援助を受けているのである。そして、乳幼児を持つ親は「現状ではやむを得ない」と思いながら援助を受けている。

経済的あるいは日常生活の援助を受けていることに関して、男性は「親が喜んでやってくれているからいい」と思う割合が女性と比べ高い傾向がある。しかし、女性は「申し訳ない」、あるいは「現状ではやむを得ない」と思う割合が男性と比べ高い傾向がある。

成人期の親子関係においては、親が自分は頼りにされているという感じがもてること、そしてその親の気持ちを成人した子どもが受容できるというあり方が多くみられる。この意味においては、男性は親が喜んでやってくれていること素直に受け止めており、親子関係がよい状態にあるともいえる。しかし、男性には日常的世話を親にしてもらって当たり前という考えがあり、男性中心のイエ制度の残滓があると考えられる。また、対象の男性の多くは本来自分が負うべき育児や家事などの家庭生活責任をとっていないので子育てや生活の実態が理解できず、親の援助の意味を理解しにくいのではないだろうか。

親にとって成人した子どもの援助をしていることが、親自身の自尊心を満足させる範囲を越え、負担になっていることもあるのではないだろうか。成人が親の援助なしに生活できないとすれば、社会の仕組みとしては必ずしも健全なあり方とはいえない。

#### 2) 対象者自身の親との心理的關係

昨今は、青年あるいは成人においても親離れ・子離れが出来にくいのではないかとわれている。今年度は、対象者とその親との心理的關係を検討し、対象者の子育てにどのような関係があるのかを検討した。

対象者の多くは、対象者自身の両親から信頼

され見守られている。しかし、女性は母親に依存的な割合が高い。また、母親が子どもである対象者に依存的であったり指示的である割合が高い傾向がある。母親と娘である対象者がお互いに依存しあっていると考えられる場合には、その娘である対象者は自分の子どもの状況を的確に把握することが不得手なことがある。

#### 対象者とその父親との関係

##### [対象者が父親に依存的]

- ・「父に愚痴や心配事を聞いてもらう」ことが<当てはまる・やや当てはまる>人の割合は、男性9%・女性17%である。(表4-5-1)
- ・「行動を決める場合に、父にアドバイスをしてもらう」ということが<当てはまる・やや当てはまる>人の割合は、男性12%・女性18%である。(表4-5-2)
- ・「愚痴をきいてもらう」という男女の約半数以上は、父親に「アドバイスをもらう」という教育的援助も求めている。このように、「愚痴を聞いてもらい」そして「アドバイスをもらう」という人の割合は、男性5%・女性10%である。

##### [父親が指示的]

- ・「何をなすべきか・どのようになすべきかを指示している」ことが<当てはまる・やや当てはまる>人の割合は、男性17%・女性23%である。男女比では女性の父親の方が指示的な割合が高い。(表4-5-4)

##### [父親は気遣って見守ってくれる]

- ・「行動に口を挟まないが、気遣ってくれる」という、対象者を気遣い見守ってくれていることが<当てはまる・やや当てはまる>人の割合は、男性60%・女性70%である。男女比では女性の方が見守りを受けている割合が高い(表4-5-3)。また、父親の見守りのある男女の場合は、父親が指示的な割合が対象全体に比べ低い(男性13%、女性20%)。

##### [父親が対象者に依存的]

- ・「父親が相談事を持ちかけてきたり愚痴を言ったりして頼る」ということが<当てはまる・やや当てはまる>人の割合は、男性15%・女性14%である。(表4-5-5)

対象者の多くは父親から見守られており、心理的に父親離れ・子離れが出来ていると考えられる。父親離れも子離れもできていないと考えられる割合は、男性0.6%・女性0.4%に存在する。父親が指示的である場合は約20%であり、成人している対象者をコントロールしている父親の割合は低いとはいえない。

#### 対象者とその母親との関係

##### [対象者が母親に依存的]

- ・「母に愚痴や心配事を聞いてもらう」ことが<当てはまる・やや当てはまる>人の割合は、男性17%・女性68%である。(表4-5-1)
- ・「行動を決める場合に、母にアドバイスをもらう」ことが<当てはまる・やや当てはまる>人の割合は、男性10%・女性45%である。(表4-5-2)
- ・「愚痴をきいてもらう」という男女の約半数以上は、母親に「アドバイスをもらう」という教育的援助も求めている。このように「愚痴を聞いてもらい」そして「アドバイスをもらう」という人の割合は、男性8%・女性42%である。

##### [母親が指示的]

- ・「何をなすべきか・どのようになすべきかを指示している」ことが<当てはまる・やや当てはまる>人の割合は、男性18%・女性42%である。男女比では女性の親が指示的である割合が高い。(表4-5-4)

##### [母親は気遣って見守ってくれる]

- ・「行動に口を挟まないが、気遣ってくれる」ことが<当てはまる・やや当てはまる>人の割合は、男性64%・女性75%である。

男女比では女性の方が見守りを受けている割合が高い(表4-5-3)。また、母親の見守りのある男女の場合は、母親が指示的な割合が対象全体に比べ低い(男性14%、女性32%)。

[ 母親が対象者に依存的 ]

- ・「母親が相談事を持ちかけてきたり愚痴を言ったりして頼る」ことが<当てはまる・やや当てはまる>人の割合は男性35%・女性59%であり、母親が娘である対象者に依存的である割合が高い。

(表4-5-5)

[ 母親と娘である対象者が母親離れ・子離れが出来ていない場合 ]

- ・「母に愚痴を聞いてもらう」・「母は指示する」・「母は私を頼っている」という項目ですべてに<当てはまる>とし、母親と娘である対象者が心理的に母親離れ・子離れが出来ていないと考えられる153例について、その女性の子育ての状況を検討した。
- ・子どもの「からだや、こころや行動」について心配があるという人の割合は、「からだ」について16%、「こころや行動」について20%である。子どもの心身を心配している割合は、対象全体の女性と比べ低い傾向がある。
- ・子どもとの日頃の関わりでは、「子どものやることは危なっかしいので、つい手を出した口をいつもだす」という割合は20%である。対象全体の女性と比べその割合は高い傾向がある。
- ・子どもと過ごしているときの気持ちでは、「大変でどうしてよいかわからないことがいつもある」という割合が5%であり、対象全体の女性と比べその割合が高い傾向がある。

対象の多くは母親から見守られており、男性

は心理的に母親離れができていていると考えられる人の割合が高い。しかし、女性の場合は母親に依存的な人の割合が42%と高く、心理的に母親離れできていない人の割合が高い。

父親に比べ母親の方が子どもである対象者に依存的であり、母親の子離れが出来ていない割合が高い。そして、母親と子どもである対象者がお互いに依存的で母親離れも子離れもできていないと考えられる人の割合は、男性1%・女性11%である。また、成人している女性の対象者を指示しコントロールしている母親の割合も高い。

母親と娘である対象者が母親離れ・子離れが出来ていない場合に、その娘である対象者は子どもの状態を適切に把握することが出来なかったり、関わりが不十分なこともある。

母親が指示的で過保護な育て方をされていると、子育てをする時に状況判断などが不得手であったり、適切な関わりがわからないということも考えられる。

子育てが負担になっている親や、子育てなどで困っている親の場合には、育ってきた環境なども子育てに関係していることがあるので、子育て中の親を支援する時には、親の背景を理解していくことが大切である。

### 3-2 育ってきた環境

離家の年齢と精神的自立、あるいは親の単身赴任による家庭環境の変化の経験などが、対象者の親子関係および現在の子育てにどのような影響があるのかを今年度は検討した。また、育った家庭に対する満足感と子育てについても検討した。

#### 1) 一人暮らしの経験

中学卒業後、親と1年以上離れて一人暮らしをした経験があるかについて検討した。対象者は就学あるいは就職によって親元を離れた経験のある人が多いといえる。中学卒業後3年間

以上一人暮らしの経験のある人は、経済的にも心理的にも自立している傾向がある。

- ・一人暮らしの「経験のある」人の割合は、男性62%・女性46%である。(表5-1)
- ・親と離れて一人暮らしを始めた年齢は、15歳から19歳が多く、男性64%・女性66%である。その期間は3年以上が多く、男性72%・女性63%である。(表5-SQ1-1,5-SQ1-2)

一人暮らしの経験のある人の親との経済的・心理的關係

- ・一人暮らしの経験が3年以上の人について検討した。現在、親から「住宅費などの経済的援助」を受けている人の割合は、男女共に21%であり、一人暮らしの経験のない人と比べ親から経済的援助を受けている人の割合は低い。
- ・親から「日常生活上の援助」を受けている割合は、男性47%・女性46%であり、一人暮らしの経験のない人と比べ、親からの援助を受けている人の割合は低い。
- ・父親との心理的關係であるが、「父親に愚痴を聞いてもらう」割合は男性5%・女性12%、「アドバイスを受けている」割合は男性7%・女性12%であり、一人暮らしの経験のない人と比べ父親に依存している割合は低い。
- ・母親との心理的關係では、「母親に愚痴を聞いてもらう」割合は男女ともに12%であり、「アドバイスを受けている」のは男性7%・女性12%である。一人暮らしの経験のない人と比べ母親に依存している割合が低い。
- ・指示的な父親・母親の割合も男女共に低い傾向がある。父親・母親が成人している対象者に気遣っている割合は高い傾向がある。
- ・一人暮らしの経験が3年以上の人は、親から経済的にも心理的にも自立している割

合が高い傾向がある。

一人暮らしの経験のある人の子育て

- ・一人暮らしの経験が3年以上ある人について検討した。男性は、自分の子どもに対して散らかす遊びをあまり制限しない人の割合が48%であり、一人暮らしの経験のない人と比べ遊びを制限しない割合が高い傾向がある。

## 2) 小・中学生時代の親の長期不在

小・中学校時代の親の仕事などによる長期不在という家庭環境の変化が、現在の子育てなどにどのような影響があるのかを検討した。

対象者が小・中学時代に、親が長期に不在だった人の割合は約12%である。親の不在と親との心理的關係について検討したが、父親が不在だった経験のある女性の場合は、母親が娘である対象者に心理的に依存している傾向がある。

- ・対象者の「父親が不在だった」割合は男性9%・女性10%で、「母親が不在だった」割合は、男女共に1%である。「両親が不在だった」割合は男女共に1%である。父親が不在だったことを経験している割合は、男性10%・女性11%である。母親が不在だったことを経験している割合は、男女共に2%である。(表5-2)
- ・「父親が不在だった」ことを経験している人のうち、その期間が通算3年以上の割合は男性で35%、女性で39%である。(表5-SQ2-1)
- ・義務教9年間の約1/3以上の期間、父親が不在だった経験をしている割合は、対象全体では男性3%・女性4%である。父親が長期不在だった対象者の親との経済的・心理的關係
- ・父親が3年以上不在だった経験のある対象者について、親からの経済的援助を検討した。男女共に結果は対象全体とほぼ同傾向である。

- ・親との心理的関係を検討したが、父親が不在だった経験をしている女性の場合は、母親に「愚痴を聞いてもらう」ことが「当てはまらない」割合が31%であり、「母にアドバイスをしてもらう」ことが「当てはまらない」割合は52%である。父親が不在でなかった人に比べ、母親に依存的な女性の割合は低い傾向がある。
- ・母親が娘である対象者に依存している割合は22%であり、父親が不在でなかった人に比べ、母親が子離れ出来ない割合が高い。母親は夫が不在だったので、娘である対象者を頼りにして生活していたことが現在も続いているのではないかと推察する。父親が長期不在だった対象者の子育て
- ・男性の場合は、子どもと「一緒に遊ぶ」ことをいつもそうするという割合が34%であり、父親が不在でなかった人に比べその割合が低い傾向がある。

## 2) 対象者が育ってきた家庭

育ってきた家庭についての満足感と現在の子育てについて検討した。育ってきた家庭について不満に思っている女性は約1/4あり、決して少なくはない。また、子育て負担感のある群では、育ってきた家庭に不満に思う割合が対象全体に比べ高い。

育ってきた家庭に不満のある女性は、自分の子どもを可愛いと思っはいるが、時には子どもを受容できなくなることもあり、子どもに対して両価的な感情がある。育ってきた家庭のあり方が現在の子育てに何らかの影響を与えていると考えられる

- ・育ってきた家庭に「満足、あるいはやや満足している」割合は男性78%・女性74%であり、多くの方は満足している。だが、「不満、あるいはやや不満」に思っている割合は男性19%・女性24%で、男女比では女性の方が不満に思っている割合が高い。(表

5-3)

- ・子育て負担感のある群では、育ってきた家庭に「満足、あるいはやや満足している」割合は男性67%・女性63%である。また、「不満、あるいはやや不満」に思っている割合は、男性29%・女性33%であるが、対象全体の男女比では不満に思っている割合が高い。  
育ってきた家庭に不満を持っている対象者の子育て
- ・育ってきた家庭に不満を持っている人を不満群とする。不満群の子どもとの関わりを検討すると、女性では「つい手を出したり口を出す」ことをいつもする割合が13%、「子どもの話を聞く」ことをいつもする割合は54%、そして「愛情表現をする」をいつもする割合は69%である。これらのことを不満のなかった女性と比べると、不満群の女性は干渉的傾向がある。また、肯定的な関わり合いの割合がやや低い傾向がある。不満群の男性では「子どもと遊ぶようにしている」ことをいつもしている割合は31%で、不満のなかった男性に比べ子どもと遊ぶ割合が低い。
- ・不満群の子どもと過ごすときの気持を検討すると、女性では「煩わしい」といつも思う割合が57%、「子育ての犠牲になっている」と時々思うが28%で、不満のない女性に比べその割合が高く、他の項目でも肯定的な感情の割合が低い傾向がある。しかし、「子どもが可愛い」といつも思う割合は74%でありその割合は高い。不満群の男性も「煩わしい」と時々思う人の割合が37%で、不満のない男性に比べその割合が高い。
- ・育った家庭に不満のある女性は自分の子どもは可愛いと思っはいるが、子どもを受容できないこともある。  
一人暮らしの経験が3年以上ある人の育っ

てきた家庭についての満足感

- ・一人暮らしの経験のある女性の場合は、育ってきた家庭に「不満、あるいはやや不満」の割合は29%である。また、育ってきたような家庭を築きたいかということでは「そう思わない、あるいはややそうは思わない」割合が44%で、一人暮らしの経験のない人に比べ育ってきた家庭に満足していない割合が高い。

### 3) 将来、育ってきた家庭のような家庭を築いていきたいと思うかについて

育ってきた家庭をモデルにして自分の家庭を築いていきたいかと設問したのは、育ってきた家庭を一応肯定していてもモデルにはならない場合があり、親の家庭観と子どもの家庭観が異なるという実態をみるためである。

対象者の多くは育った家庭に満足していると回答しているが、育ってきた家庭をモデルにしたくないという人の割合が少なくはない。子育て負担感のある群では、育ってきた家庭をモデルにしたくない割合が高く、家庭に問題があったのではないかと考えられる。

- ・育ってきた家庭のような家庭を築きたいと「そう思う、あるいはやや思う」割合は、男性60%・女性59%で、「やや思わない、あるいはそう思わない」割合は、男性35%・女性39%である。(表5-4)
- ・子育て負担感のある群では、育ってきた家庭のような家庭を築きたくないという人の割合は、男性45%・女性47%である。対象全体の男女と比べその割合が高い。

### 3-3 生き方に関する考え方と価値観の継承

現代においてはどのような考え方や価値観が生き方では大切にされているのか、また、それらが世代間でどのように継承され、あるいは変化してきているのかについて検討した。

考え方と価値観に関する観点については前述の調査内容に記した。39項目の質問を作成し5件法で調査をした。対象者自身の父親や母親は「どのような生き方や態度を大切にしていたと思うか」と、対象者に回答をしてもらい、また、「次の世代にどのような生き方や態度を大切にしたいと思うか」と対象者に設問をした。

分析対象は、39項目全問に回答したものの男性2504例・女性2849例である。そして、男女別(表6)、育った家庭に不満を持つ群、そして子育て負担感のある群について検討をした。

対象者の親が大切にしていた考え方や価値観は、「不正等を許さない規範性と、自分の言動に責任をもつこと、そして経済的に精神的にも生活面においても自立的に生きること。また、家庭にあっては、親を大切に子どもを慈しむ」ことである。

対象者も親の価値観を次の世代に大切にしたいと思っており、子育てにおける価値観は継承されていることが認められた。

しかし、対象者が次の世代に大切にしたいと思う内容には、親世代とは異なる価値観がある。それは、「家族との暮らしを大切にすること。そして夢と理想をもって生きること。人の気持ちがわかり人間関係を大切に、何よりも生活は楽しく」ということである。

育った家庭に不満のある人や子育て負担感のある人の場合には、対象者の親が家庭生活を大切にしていなかった傾向が認められた。

#### 1) 男性対象者の価値観について

男性の父親が大切にしていた価値観

- ・男性が自分自身の父親に<当てはまる>とした平均得点1.0以上の項目は5項目である。それは、「不正や悪いことを許さない 1.34」・「自分の親を大切にすること 1.19」・「経済的・精神的・生活面におい

- て自立する 1.19」・「自分の言動に責任を持つ 1.17」・「自分の子どもを慈しむ 1.08」である。
- ・ <当てはまらない>項目は、「成り行きにまかせる -0.23」・「信仰心を大事にする -0.16」の2項目である
  - ・ 男性の父親の考え方や価値観は、「規範・責任感・自立性という社会性や、親を大切にそして子どもを慈しむ」ことである。男性の母親が大切にしていた価値観
  - ・ 男性が自分自身の母親に<当てはまる>とした平均得点1.0以上は13項目である。「不正などを許さない1.38」・「親を大切にする 1.38」・「子どもを慈しむ1.34」・「家族の支え合いを大切にする 1.15」・「人の弱さや痛みを気づかうことができる 1.15」・「言動に責任を持つ 1.13」・「子どもとの暮らしを大切にする 1.13」・「忍耐強い 1.08」・「人との調和を重んじる 1.04」・「生活は楽しく 1.02」・「自立する 1.01」・「配偶者との関係を大事にする 1.01」・「人の気持ちが分かる 1.0」である。
  - ・ <当てはまらない>項目は、「成り行きにまかせる -0.13」・「論理的思考を大切にすること -0.05」の2項目である
  - ・ 男性の母親と父親の価値観は同傾向を示し、「規範・責任感・自立性という社会性や、親や子どもを大切にすること」である。母親には父親と異なる価値観があり、それは「家族の協力、そして子どもや配偶者との暮らしを大切にすること。また、人に対する気遣いや気持ちの理解などを大切にしている」ことである。男性が次の世代に大切にしたいと思う価値観
  - ・ 男性が次の世代に大切にしたいと思う項目で、<当てはまる>とした平均得点1.0以上は24項目である。よく当てはまる

- と考えられる得点1.5以上は6項目である。「生活は楽しく 1.65」・「言動に責任を持つ 1.59」・「子どもを慈しむ 1.56」・「配偶者との関係を大事に 1.54」・「人の弱さや痛みを気づかう 1.53」・「不正などを許さない 1.52」である。また、他にも得点の高かった項目は、「家族の支え合い・協力 1.47」・「夢を持つ 1.47」・「人の気持ちが分かる 1.46」・「親を大切にすること 1.43」・「子どもとの暮らしを大切に 1.43」・「自立する 1.43」で、多くの項目で得点が高い。「生活は楽しく」という価値観が最高得点であった。
- ・ <当てはまらない>とした項目は、「成り行きにまかせる -0.17」・「信仰心を大事に -0.16」の2項目である。
  - ・ 男性が次の世代に大切にしたいと思っていることには、男性の父親や母親が大切にしていたと思われる考え方を含んでおり相関が高い。男性の価値観と父親の価値観の相関係数は0.767、同様に男性の価値観と母親の相関係数は0.754である。(表7)
  - ・ 男性の父親や母親からの継承と考えられる主なことは「不正等を許さない規範性、言動に責任をもつこと、そして経済的に精神的にも生活面においても自立的に生きること。また、家庭にあっては、親を大切にそして子どもを慈しむ」ことである。親世代からの価値観の継承性をみることが出来る。
  - ・ しかし、男性が次の世代に大切にしたいと思う内容には、親世代の価値観とは異なるものもある。それは得点の差として表れており、「生活は楽しく」・「子どもとの暮らし」・「配偶者との関係を」を大切にしたいということである。「生活は楽しむ」という価値観は最高得点であり、親世代とは特に異なる価値観であること

が認められた。また、他者との接し方や対人関係のあり方に関する得点も高く、他には「視野の広い考え」・「理想をもつ」・「ユ・モアがある」・「様々なことに挑戦する」・「物事に対してイメージを豊かにしてみる」という価値観の得点も父親や母親の得点より高い。

## 2) 女性対象者の価値観について

女性の父親が大切にしていた価値観

- ・女性が自分自身の父親に<当てはまる>とした平均得点1.0以上の項目は5項目である。それは、「不正などを許さない 1.41」・「親を大切にする 1.25」・「自立する 1.21」・「責任を持つ 1.19」・「子どもを慈しむ 1.13」である。

- ・<当てはまらない>とした項目は、「信仰心 -0.37」・「成り行きにまかせる -0.17」の2項目である。

- ・対象男女の父親の価値観はほぼ同傾向を示し、相関係数0.990である。

女性の母親が大切にしていた価値観

- ・女性が自分自身の母親に<当てはまる>とした平均得点1.0以上は12項目である。「親を大切にする 1.47」・「不正などを許さない1.46」・「子どもを慈しむ 1.42」・「人の弱さや痛みを気づかう 1.27」・「言動に責任を持つ 1.24」・「子どもとの暮らしを大切に 1.23」・「家族の支え合い・協力 1.23」・「忍耐強い 1.22」・「人の気持ちが分かる 1.14」・「生活は楽しく 1.12」・「人との調和を重んじる 1.12」・「自立 1.12」である。

- ・<当てはまらない>とした項目は、「論理的思考 -0.09」・「成り行きにまかせる -0.07」・「信仰心 -0.07」の3項目である。

- ・男性と女性の母親の価値観はほぼ同傾向を示し、相関係数0.988である。

- ・女性は男性に比べ多くの項目で平均得点が高く、女性は母親の価値観を肯定的に受けとめていると考えられる。しかし、母親が「配偶者との関係を大事にする」ということに関しては、女性の平均得点0.9であり男性の得点1.01よりも低く、女性は同性である母親の価値観などに関して厳しい見方をしている。

女性が次の世代に大切にしたいと思う価値観

- ・女性が次の世代に大切にしたいと思う項目で、<当てはまる>とした平均得点1.0以上は28項目である。<よく当てはまる>という得点と考えられる平均得点1.5以上は14項目である。「生活は楽しく 1.70」・「人の弱さや痛みを気づかうことができる 1.71」・「子どもを慈しむ 1.70」・「言動に責任を持つ 1.67」・「人の気持ちが分かる 1.66」・「家族の支え合い・協力 1.65」・「配偶者との関係を大事にする 1.61」・「夢を持つ 1.59」・「親を大切に 1.59」・「不正などを許さない 1.59」・「自立 1.56」・「子どもとの暮らしを大切に 1.55」・「性別で差別をしない 1.53」・「視野の広い 1.51」である。多くの項目で得点が高い。
- ・<当てはまらない>とした項目は、「成り行きにまかせる -0.17」・「信仰心 -0.16」の2項目である。

- ・女性が次の世代に大切にしたいと思っていることの最高得点の項目は、男性と同じ項目であり、「生活は楽しく」という価値観である。

- ・対象者の男女が、次の世代に大切にしたいと思う価値観は同傾向を示し、男女間の価値観の相関係数は0.984である。

- ・しかし、女性が次の世代に大切にしたいと思う内容と男性の価値観とは異なるものがある。それは、「人への気づかい

があること、そして、性別で差別をしないことである。また子どもとの暮らしや、夫婦関係を大切にして、家族の協力を大切にする」ことである。

- ・女性が次の世代に大切にして欲しいと思っていることには、父親や母親が大切にしてきたと思われる考え方を含んでおり相関が高い。女性の価値観と父親の価値観の相関係数は0.754、同様に女性の価値観と母親の相関係数は0.799である。女性においても親世代からの価値観の継承があることが認められた。
- ・しかし、女性が次の世代に大切にして欲しいと思う内容には、親世代の価値観とは異なるものがある。それは、「生活は楽しく」・「子どもとの暮らし」・「人への気遣いがある」・「性差別がないこと」である。他には、「物事に対してイメージを豊かにしてみる」・「様々なことに挑戦する」・「夢を持つ」・「ユ・モアがある」・「理想を持って生きていく」の平均得点が、父親・母親の平均得点よりも高い。また、特に父親の平均得点と差があったのは、「生活は楽しく」・「人の気持ちが分かる」・「性別で人を差別しない」・「人の弱さや痛みを気づかう」という項目である。

#### 4) 生き方に関する考え方と価値観について 親世代が大切にしてきた価値観

父親や母親が大切にしてきたと思われる考え方や価値観は、「規範性と責任感があり、自立して生きること。そして親を大切にして子どもを慈しむ」といえる。そして、対象者の父親と母親が大切にしてきたと思われる価値観の相関が高いことから、親世代の価値観はほぼ同じである。価値観の相関は、男性の父母間の相関係数は0.913、女性の父母間では0.915である。また、男女の父親間の相関係数は0.990で、男女の母親間は0.988である。

#### 父親と母親の考え方の相違

父親と母親の考え方で異なることは、母親の方が「子どもとの暮らしを大切にし、家族の支え合い・協力を大切にしてきた」ことである。また、「人の弱さが気づかえる」ことである。母親の方が家族や周囲の人へ関わりを大切にしてきたことを対象者は感じている。

#### 親世代の価値観の継承について

対象者が次世代に大切にして欲しいと思っていることは、男女共ほぼ同じである。また、男女共に父親と母親が大切にしてきたと思われる価値観を次の世代に継承しようとしていることが明らかになった。次の世代に継承されようとしている価値観は、「自分の子どもを慈しみ、親を大切にする。そして規範性と責任感を持った自立的な生き方を大切にしていく」ことである。次の世代を育てる価値観は、父親から男児へ、母親から女児へという継承の流れが相関係数より考えられる。

#### 対象者と親世代の考え方の相違

対象者と親世代の考え方で特に異なることは、「家族との暮らしを大切にする。そして夢と理想をもって生きること。人の気持ちがわかり、人間関係を大切にし、何よりも生活は楽しく」ということである。また、「視野の広い考えとメ・ジ力をもって物事を対処し、様々なことに挑戦していく姿勢あること。そして、ユ・モアがあり、他者への配慮性があり、性別で差別がない」ということもある。

#### 大切にされていない価値観

父親や母親の価値観でも、また対象者が次の世代にのぞむ価値観において共通して得点が低かったのは、「信仰心」と「成り行きに任せた生き方」の項目である。日本人の信仰心あるいは宗教に対する関心の薄さなど、心のよりどころと子育てに関することについては今後の検討課題である。また、「無駄な考えや行動をしない」あるいは「論理的思考が大切」という項目の得点も高くはなく、日本人には合理性と

か論理的という考え方や態度が馴染みにくいところがあるのではないかと推察されるが、これも教育との関連で今後の検討課題である。

#### 4) 特性別の検討

育ってきた家庭に不満を持つ群、そして子育て負担感のある群の価値観について価値観について検討をした。

育ってきた家庭に不満を思っている群

育ってきた家庭に対して「やや不満がある」あるいは「不満がある」ものを不満群とし、対象全体と比較検討した。

[ 父親が大切にしていた価値観 ]

- ・不満群では、父親に<当てはまる>とした平均得点1.0以上の項目は少ない。男性では皆無で女性では「不正などを許さない」の1項目であり平均得点が低い傾向がある。親の存在が希薄であったのではないかと考えられる。
- ・男性の不満群と対象全体の男性を比較すると、男性不満群では平均得点がマイナスである項目が8項目と多い。家族観に関する項目では、「家族の支え合い・協力 -0.08」・「配偶者との関係を大切 -0.08」・「子どもとの暮らしを大切 -0.05」、考え方や態度では「視野の広い -0.12」・「論理的思考が大切 -0.12」・「挑戦する -0.06」・「イメージを豊かに -0.22」・「信仰心 -0.12」である。対象全体ではマイナスだった「成り行きに任せる」は、不満群では0.12でプラスである。他には、「子どもを慈しむ 0.25」・「親を大切に 0.58」・「人の気持ちが分かる 0.09」・「不正などを許さない 0.99」・「責任を持つ 0.52」の項目の平均得点が、対象全体の男性と比べ低い。
- ・女性不満群も男性不満群と同傾向を示している。家族観に関する項目では、「配偶者との関係を大切 -0.28」・「家族の支

え合い・協力 -0.13」・「子どもの暮らしを大切 -0.12」、考え方や態度では「イメージを豊かに -0.37」・「ゆったりと構える -0.17」・「挑戦する -0.15」・「論理的思考が大切 -0.06」・「無駄な考えをしない -0.04」・「信仰心 -0.57」である。「成り行きに任せる 0.0」である。他には、「親を大切に 0.62」・「子どもを慈しむ 0.28」・「人の気持ちが分かる 0.0」・「生活は楽しく 0.21」・「問題から逃げない誠実に対応 0.12」・「自分の限界を知る 0.02」の項目の平均得点が、対象全体の女性と比べ低い。

- ・不満群の父親は、「家族や暮らしを大切にしておらず、子どもを慈しむこともあまりなく、人の気持ちがわかりにくい。そして、規範性や責任感があまりなく論理的思考や視野の広さがない。様々なことに挑戦しているとは思えず、多少成り行き任せのところがある。また自分の親を大切にするという態度が見受けられにくい」という傾向がある。

[ 母親が大切にしていた価値観 ]

- ・不満群では、母親に<当てはまる>とした平均得点1.0以上の項目は少ない。男性では「不正などを許さない」の1項目で、女性では「不正などを許さない」・「親を大切に」の2項目である。平均得点は低い傾向がある。父親の結果と同傾向を示しており、親の存在が希薄であったのではないかと推察される。
- ・男性不満群と対象全体を比較すると、男性不満群の平均得点がマイナスである項目が5項目と多く、「視野の広い -0.11」・「無駄な考えをしない -0.04」・「論理的思考が大切 -0.34」・「挑戦する -0.09」・「イメージを豊かに -0.13」である。また、「成り行きに任せる」は 0.17であり、対象全体でマイナスだったが不満

- 群ではプラスである。他には、「配偶者を大切に 0.29」・「家族の支え合い 0.46」の項目の平均得点が対象全体と比べ低い。対象全体に比べやや得点の高かった項目は、「仕事は生活のため 0.85」である。
- ・女性不満群も男性不満群と同傾向を示している。平均得点がマイナスの項目は「論理的思考が大切 -0.29」・「イメージを豊かに -0.06」・「視野の広い -0.04」・「信仰心を大切 -0.04」である。「成り行きに任せる」は0.0である。家族観に関する項目では、「配偶者との関係を大切に0.1」・「家族の支え合い・協力 0.57」・「子どもの暮らしを大切に 0.66」・「子どもを慈しむ 0.89」である。他には、「親を大切に 1.07」・「人の気持ちが分かる 0.64」・「生活は楽しく 0.52」・「責任を持つ0.76」の項目の平均得点が、対象全体と比べ低い。対象全体に比べ得点の高かった項目は「仕事は生活のため 0.98」である。
  - ・不満群の父親と母親の価値観はほぼ同じであった。だが、母親の方が家族との生活を大切にしている傾向が認められた。男女共に父親と母親の価値観の相関は高く、相関係数は男性の父母間で0.769、女性の父母間では0.780である。
  - ・不満群の母親は、「規範性や責任感があまりなく、論理的思考や視野の広さがない。様々なことに挑戦しているとは思えず多少成り行き任せで、仕事は生活のためと思っているところがある。家族や暮らしを大切にしているが十分とはいえず、子どもを慈しむこともあまり十分ではない」傾向がある。
  - ・育ってきた家庭について不満を持っている対象者の親は、夫婦関係や家族の支え合いや協力を大切にすることがなく、子どもを慈しんだり親を大切にすることが十分

ではなかったといえる。また、親は社会性を大切にしていなかったといえる。

[ 次の世代に大切にしたい価値観 ]

- ・男女共に不満群の結果は、対象全体とほぼ同じである。しかし、平均得点は全体的にやや低い。男性が次の世代に継承したいと思っている項目で平均得点1.5以上の項目は、「生活が楽しく 1.66」・「言動に責任をもつ 1.53」・「子どもを慈しむ 1.51」である。
- ・女性は「生活が楽しく 1.72」・「人を気づかう 1.66」・「子どもを慈しむ 1.63」・「人の気持ちが分かる 1.62」・「言動に責任を持つ 1.60」・「夢を持つ 1.58」・「家族の支え合い 1.57」・「自立する 1.53」・「配偶者との関係大切に 1.52」・「不正などを許さない 1.52」の10項目である。
- ・次の世代に大切にしたい価値観は、自分の親にはみられなかった「社会性や家庭を大切にすること」ということである。しかし、対象者には親と異なる価値観があることが相関に示されており、父親の価値観と対象者の価値観の相関係数は、男性の場合は0.193、女性の場合は0.161である。同様に母親の価値観とも相関が低く、相関係数は男性の場合は0.358、女性の場合は0.426である。
- ・対象者が親を肯定しよい家庭だったと思える場合は、子育てに関する親の考え方や態度を継承していく傾向がある。だが、育った家庭に「不満がある」場合には、父親の価値観の世代間継承は認められず、母親との世代間継承は弱い。このように、育った家庭に不満を持っている場合には、次の世代には自分の親にはなかった考え方や価値観を伝えたいと思っていることが明らかになった。
- ・育った家庭に不満だった人の親の生き方

には、家庭生活や家族を大切にしないところがあるので、対象者が親のような家庭を築きたくない思いがあることは十分に理解できる。

#### 子育て負担感のある群

男女共に子育て負担感のある群の親と対象全体の親の価値観はかなり同質性があるが、異なることも認められた。また、平均得点が対象全体と比べやや低い傾向がある。

#### [ 父親が大切にしていた価値観 ]

- ・男性では平均得点が1.0以上の<当てはまる>というのは3項目で、「不正などを許さない 1.21」・「自立する 1.07」・「親を大切にする 1.01」である。対象全体との相違は、「論理的思考 -0.06」あるいは「成り行きにまかせる 0.13」である。
- ・女性の結果も男性の結果と同傾向を示し、平均得点が1.0以上の<当てはまる>というのは3項目で、「不正などを許さない 1.24」・「自立する 1.05」・「言動に責任を持つ 1.02」である。対象全体との相違は「論理的思考 -0.04」や「仕事は生活のためにする 1.0」ということである。
- ・対象者の父親は、「社会性を大切にしていたが、子どもとの暮らしや家庭生活に対する肯定的な考え方はなかった」といえる。また、父親は「論理的思考を大切にしている」という態度も認められなかった。

#### [ 母親が大切にしていた価値観 ]

- ・男性では平均得点が1.0以上の<当てはまる>というのは3項目で、「不正などを許さない 1.27」・「親を大切にする 1.07」・「子どもを慈しむ 1.03」である。対象全体との違いは、「イメ - ジ豊かに -0.13」・「信仰心 -0.09」・「成り行きに任せる 0.11」・「仕事は生活のためにする 0.87」である。
- ・女性は平均得点が1.0以上の<当てはまる

>というのは6項目で、「不正などを許さない 1.27」・「子どもを慈しむ 1.15」・「忍耐強い 1.15」・「親を大切にする 1.11」・「人を気づかう 1.08」・「言動に責任を持つ 1.04」である。対象全体との相違は、「成り行きに任せる 0.12」・「信仰心 0.14」・「論理的思考 -0.38」・「仕事は生活のためにする 0.92」である。また、「イメ - ジの豊かさ 0.05」の得点も低い。

- ・対象者の母親には「社会性や親を大切に子どもを慈しんでいる」ことなどの価値観があったと理解できる。しかし、「家族関係や家庭生活に対する肯定的な考え方や価値観」があったことは認められにくい。また、母親が「成り行き任せの傾向やイメ - ジが豊かではない」ことも示された。母親には「仕事は生活のためにする」といった考え方もある。
- ・「生活は楽しく」といった価値観の得点が対象全体の得点よりも低く、これは母親の「夢」や「ユ - モア」の得点が低いことから生活を楽しむ価値観がないのか、あるいは何らかの環境要因によって、生活を楽しむゆとりがなかったのではないだろうかと考えられる。
- ・男女共に父親と母親の価値観の相関が高く、男性の父母間では相関係数0.863、女性の父母間では0.797である。

#### [ 次の世代に大切にしたい価値観 ]

- ・子育て負担感のある群が、次の世代に大切にしたい価値観は、男女ともに対象全体とほぼ同じである。だが、平均得点は全体的に低い傾向がある。
- ・対象全体との違いは、「成り行きに任せる」が男性0.14・女性0.1であり、プラスの得点である。次いで「仕事は生活のためにする」が男性0.83・女性0.66という得点がやや高いことである。「生活は楽しむ」

とか「夢を持つ」、あるいは「ユ・モアがある」などの得点は対象全体と比べ低い傾向がある。

- ・父親と対象者の次の世代にのぞむ価値観の相関は、男性の相関係数が0.623で、女性の相関係数は0.501である。同様に、母親と対象者の価値観の相関は、男性の相関係数が0.538で、女性の相関係数は0.597である。子育てに関する考え方や価値観は、同性を通して世代間で継承されているといえる。しかし、対象全体の相関と比較すると、子育て不満群における相関はやや低い。
- ・子育て負担感のある群の次の世代に関する考え方には、「成り行きに任せたり、仕事は生活のため」という傾向がある。そして、「夢をもちユ・モアがあり、生活は楽しむ」という価値観は肯定的には捉えられていない。このような、やや消極的な生き方や価値観は対象者の親世代でも認められており、次世代にも継承されていく可能性があることが認められた。

### 3-4 小括

第一に、乳幼児を持つ対象者の経済的・心理的自立について、対象者の親からの経済的援助などの状況と心理的關係より検討した。親からの経済的援助は約30%である。前年度に我々が行った少子化研究では、既婚者の約28%が親から経済的援助を受けており、子育て中の養育者世代では、親から経済的援助を約1/3の人が受けているといえよう。

しかし、日常生活上の世話を親から約1/2の対象者が援助してもらっている。これは、経済的援助の割合よりも多く、仕事を持つ対象者のかなりの人が、子育てと仕事を両立していくには親の援助を受けざるを得ない状況がある。

対象者とその親との心理的關係であるが、母親が成人した子どもに心理的に依存し子離れ

が出来ていない割合が高い。母と娘(成人した女性)が親離れ・子離れ出来ず心理的に依存している場合には、このような女性は親として子どもの状態を適切に把握することが難しいこともある。

成人が経済的にも心理的にも生活においても自立し、親の援助などをあてにしないで、家庭と仕事の両立をできるような社会の仕組みが整うことが、健全なあり方である。

第二に、育ってきた環境を検討した。一人暮らしの経験のある人は、経済的にも心理的にも親から自立している傾向がある。

一人暮らしの経験のある人や、父親が長期に不在だった人の親の考え方や価値観について、また、子育てに関することについては、今後さらに研究をすすめる必要のある課題である。

対象者の大半は育ってきた家庭に満足しているとはいえ、女性では約1/4が不満に思っているということの方を重視すべきであろう。

不満に思っている女性の場合は、親として子どもを可愛いと思っはいるが、時には煩わしく思い子どもを受容できないこともあり、子どもに対して両価的な気持ちを持っている。また、子育て負担感のある群では、育ってきた家庭に不満な人の割合が多い傾向がある。

育ってきた家庭環境の影響が、現在の子育てに何らかの影響があると考えられるので、子育て支援における相談などでは対象者の理解を十分にしなければならない。

第三には、生き方における考え方と価値観について、対象全体・育った家庭に不満のある群・子育て負担感のある群について検討をした。

[対象全体]: 対象全体の父親が大切にしていた価値観と、母親のそれとの間の相関は高く、親世代の価値観はほぼ同じであるといえる。対象者の親の価値観は、「規範性と自分の言動に責任をもつこと、そして経済的・精神的・生活面においても自立して生きること。また、家庭にあっては、親を大切にしてお子孫を慈しむ」

といえる。しかし、対象者の母親と父親の価値観の違いに注目すると、母親の方が「家族や周りの人々に対する関わり」を大切にしていることがあげられる。

対象者が次の世代に大切にしたいと思う価値観は、親世代の価値観である「社会性や自立性そして親や子ども大切にすること」を継承していることが明らかになった。また、親の考えとは異なることは、「夫婦や子どもとの暮らしを大切にすること。夢と理想を持ち、視野の広さとイメ - ジカをもって物事に挑戦的に関わること。ユ - モアがあり共感性と思いやりのある態度で人と接し、性差別観のない人。そして、何よりも生活は楽しむこと」である。

最後にあげた「生活は楽しく」ということは、特に親との違いが大きい。バブル経済が崩壊し、経済成長路線の生き方が反省されている今日、「家族との暮らし」を大切に「生活は楽しく」という価値観があることは興味深い。

[ 育ってきた家庭に不満を持っている群 ] : 不満群の父親や母親の生き方には、「社会性の低さがあり、また生き方が消極的で何よりも家庭生活を大切にしていない」傾向がある。対象者が次の世代に大切にしたいと思うことは、不満群の親にはみられなかった「社会性や家庭を大切にすること」である。

不満群では価値観の相関が低く、世代間継承は認められなかった。不満群では、育ってきた家庭をどちらかという反面教師とし、対象者自身が新たな価値観をもって家庭あるいは子育てをしていこうという思いがあることがわかった。不満群の女性では、我が子に対して両価的な感情をもっていることもあり、対象者自身が適切な関わりを受けたり受容された体験が少ないので、我が子を十分に受けとめられないことがあると考えられる。

親の価値観やコミュニケーションの仕方など、家庭生活における習慣や行動に関することは、次世代へ継承されていくことが示唆された。

[ 子育て負担感のある群 ] : 負担感群の男女の父親や母親の生き方は、「社会性は高いが、論理的思考がなく、成り行き任せである。また、家族や暮らしを大切にしていない」傾向がある。また、負担感群の女性の母親には、「生活は楽しく」という価値観があまりなく、母親は何らかの要因によって生活を楽しむゆとりなかったのではないかと考えられる。

負担感群が次世代に大切にしたいと思う価値観は、対象全体の価値観とほぼ同じである。しかし、対象全体と異なることは、「仕事は生活のためにし、物事を成り行きに任せる」傾向があることである。負担感群では、どちらかという消極的な生き方や価値観があり、これは負担感群の親にも認められている。負担感群では、親と対象者の価値観とは相関があり、消極的な生き方も世代間で継承されている。

負担感群についての子育てや生活のことについては、前述の< 2 子育て実態 >において報告したが、我が子に対する関わり方の問題やあるいは子どもを持つこと事態に意義を感じていないなど、子どもに対してネガティブな感情を持っている。また、生活環境としては、子育てを援助してくれるネットワーク体制が弱かったり夫婦関係がよくないなど、現在の生活にも問題がある。

負担感群では、対象者の親の価値観や育て方の影響ばかりではなく、現在の生活上の諸問題や家族各々の性格など個人の問題なども、子どもとの生活に影響を与えていると考えられる。

今調査では、育ってきた家庭に不満を持っている人は対象全体では22%、また、子育てにおいてかなり負担を感じている人は約4%存在している。アンケート調査という制限があるので、不安や心配等を抱えていても問題などが顕在化していない養育者もまだ存在しているのではないかと推察される。

子どもの生活や子育てには、生活上の諸問題の影響ばかりではなく、養育者の親の価値観や

子育てなどや生活のあり方など、すなわち家庭の中の文化や生活習慣の影響もあることがわかった。

母子保健あるいは子育て相談などの領域における子育て支援で、今後重要であると考えられる視点は次ぎのことである。

健診や相談などの第一次機関の場では、スクリーニングを主体とするばかりではなく、養育者の子育てと生活に関する様々な要望に支援できること、また潜在的な問題に対してもプライバシーを侵害することなく支援できるような体制が整備されることが重要である。

すなわち、これからの子育て支援に関する事業は支援サービスというメニューの提供ばかりではなく、専門性を持って対象の理解につとめ、支援が行われることである。それには、子どもや親に専門的サービスをするスタッフの再教育などの検討も必要なのではないだろうか。

少子化の時代だからこそ必要なサービスがあり、また、少子化だからこそ今まで十分にサービス出来なかったことに関して、専門性をもってサービスが出来るのではないだろうか。支援に関する具体的な提言については、前述の〈2 子育て実態〉の小括も参照されたい。  
(千賀悠子)

## 結語

現代の日本においては共働きが多いこともあって、子育てにおける経済的あるいは日常生活上の援助など物理的な問題を、親世代の援助で補われている部分が少なからずあることが明らかになった。また、若い親の経済的・精神的・生活面における自立という観点からこの援助関係をみると、この親子関係には「甘え」と「依存」を核とした未成熟な関係があるといえる。

子育てと仕事を両立させていくには、経済面ばかりではなく生活全体にゆとりのある環境

が整わない限り相当のストレスを受ける。よって、親子の「甘え」あるいは「依存」を昇華し、親子が成熟した関係になるような社会の基盤整備が肝要であり、親子間の依存関係に頼ることのない育児支援策の整備が必要である。

今日、少子の問題は経済や保育の政策課題として取り組まれ、子育て支援に関しては多種多様なメニューが提供されている。

われわれは、今調査の結果をふまえ、これからの子育て支援で重要であると考えられる3つの視点を提言する

第一には、子育て支援の対象は、子育てをしている家族とその子ども全員である。支援の二つの有無で、あるいは支援施策の基準にあっているかどうかという線引きで、支援の対象は限定できないということである。

核家族化そして長寿化社会にある現代においては、地縁血縁というネットワークが脆弱化しており、子育てで迷ったり戸惑ったり前に進めなくなる場合に励ましてくれたり支えてくれる眼差しや手が少ないのである。ほんの少し高いステップが登れない場合は、誰にもあるのではないだろうか。子育てをしていること自体が、養育者のライフステージにおいて心理的にも経済的にも危機であるといえる。

第二は、専門家の教育を含めてシステムの再構築である。それは、健診や相談の第一次機関である場で、高度の専門性を持って対象の理解をし、かつ必要な援助が出来るシステムをつくることである。また、母子保健、福祉、あるいは保育・教育・心理などの専門領域とのさらなる連携であり、即戦力となるネットワークを立ち上げることである。そして、子育て支援に携わる専門家の教育・研修内容などの検討が必要である。

第三には、子育て支援における専門性についての検討である。その専門性の中でも今後特に大切なことは、対象理解、援助の方法、そしてケ・スマネジメントであると考ええる。今調査

の結果より得られた知見より、対象理解のためのポイントについて述べる。

[ポイント 1]: 家族全体を総合的に捉えて問題を把握していくことである。また、専門領域のネットワークなどを活用して対象を理解し、最善のサービスを提供できるようにすることである。

[ポイント 2]: 家庭の生活習慣である文化的慣習の行動、すなわち「生活と文化の習慣と行動」に視点をあてることである。

親の子育ての考え方や価値観は、家庭生活のあり方や文化的習慣や行動に反映されるものである。そして、この「生活と文化の習慣と行動」は、世代間で継承されていくので、この家庭のあり方を理解することは、対象理解の重要な視点である。

家庭生活の生活管理や養育・教育的機能ばかりに焦点をあててきた、今までの対象理解の視点を広げるべきである。

視点のあてかたは、一つには、子どもに焦点を当てながら家族内の人間関係やコミュニケーションの仕方、問題解決のプロセスのあり方、趣味やスポーツの楽しみ方などについて情報を収集し検討をすることである。次には、家族のネットワークの規模と質について検討をする。家族以外の人々との関係がどの様に開かれているか、血縁や地縁ばかりではなく様々な人々の相互関係や援助関係などに関するものである。まさに、家庭のオープン性とネットワークに視点をあてることである。

少子化時代の子育て支援においては、個人領域に関する理解と支援という視点を持つことが大切であり、これが次世代育成につながる方向にあるといえるのではないだろうか。

## 謝辞

調査にご協力いただいた全国の保護者各位と保育関係者各位に深謝申し上げます。また、調査票作成にあたって、本研究の研究協力者である日本子ども家庭総合研究所母子保健研究部研究員各位に助言を得た。

(千賀悠子、齋藤幸子、宮原忍 大賀英史)

## D. 結論

結婚・出産・育児に対する社会環境の影響について検討し、少子化の要因分析と少子対策の策定に向けての方策の確立を目的に、二つの方法による研究を行った。

(1) 昨年度の全国規模で実施した既婚未婚の男女に対するアンケート調査のうち、回答者の自由記載の内容を分析し、それをもとに、保健行政学、母子保健学、児童福祉学、教育学、心理学、健康教育学、育児学の各分野の専門家によって、専門的検討を行った。新たな社会環境の変化を捉えた「家庭の自立」「住民参加」支援を促す発想による政策の充実が必要とされるとともに、対象に正しい知識や適切な情報の提供等のサービスの充実も必要となる。また、アンケートの回答内容から見て、サービスについての知識が不足しているようであり、これらの公的なサービスの実施状況について、PR方法の工夫による住民に周知させる手立てが必要である。そのためには、多方面のメディアの活用も配慮されるべきであろう。さらに、発想を変えて、国からの補助金を自由に活用させるだけの度量も要求されている。一方、母親の立場からいえば、女性の社会参加を主眼とした子育て支援対策の確立が期待されており、特に専業主婦も含む子育て困難者の支援体制の確立、保育サービスの充実が急務といえる。地域内では、保育園職員、中高齢者の先輩母親による育

児支援等の手近なところでの支援体制の確立の構想もあげられた。子育ての経済的負担に多くの意見が集まっていることから、教育費の負担の軽減も必要である。このことは今日の教育に対する不満につながると思われるので、その対策の確立が急がれる。

(2)子育ての実態についてのアンケート調査によって、子育てに心配事感をもつものが約半数に達していることが把握できた。特に、子育て負担感の強いものは、子どもの健康上に問題が認められたり、夫婦関係や祖父母を交えた家族関係が良くなく、さらに現在の家庭に不満をもつものが多いことが把握された。このことから、子どもの健康対策の支援、心配事の解決の支援対策をもっと充実させることが必要であり、さらに家族のことも気安く相談できる体制の確保も必要であろう。

少子の問題を経済や保育政策の問題などの物理的問題として、それに対する方策を立ててきたものを、今後は、個人の問題、家族の問題として考察される必要があるものと思われる。すなわち、今後の家族支援のあり方は、子どもに焦点を当てていながらも、その家族の世代間に継承される背景を考慮し、家族とそれを取り巻く環境を総括的に整える支援体制の確立が望まれ、それが次世代育成につながる方向にある方策といえるのではなかろうか。

( 高野 陽 )

## E. 研究発表

学会発表

今年度および、今年度以降に開催される日本小児保健学会等での発表を予定している。

## &lt; 調査実施箇所リスト &gt;

	区市町村数	区市町村名（数字は調査施設数、記載のない地域の調査施設は1か所）	調査施設数	公立	私立	調査票配布世帯数
東京23区内	17	江戸川区・荒川区・渋谷区・新宿区・杉並区・世田谷区・千代田区・大田区・中央区・中野区・板橋区2・品川区・文京区・北区・墨田区2・目黒区・練馬区	19	0	19	1,654
首都圏（23区をのぞく）	10	伊勢原市・小田原市・水戸市・相模原市2・町田市2・藤沢市2・八王子市・武蔵村山市・福生市・平塚市	13	2	11	1,646
中核市および中都市	12	旭川市・岡山市4・郡山市3・山形市・新潟市3・倉敷市・長崎市2・函館市3・姫路市3・氷見市・浜松市2・福井市2	26	1	11	2,190
町村	3	沖縄県内・福岡県内・大分県内6	8	1	7	443
計	42		66	4	62	5,933

## &lt; 男女別集計対象内訳 &gt;

男性	3,734人	ペア回答の男性 3,586人 + 男性単独回答合計 148人
女性	4,353人	ペア回答の女性 3,586人 + 女性単独回答合計 767人
合計	8,087人	

## &lt; 世帯別回答パターン内訳 &gt;

	ペア回答	男性単独回答	女性単独回答	合計
二人親世帯	3,586	101	235	3,922
一人親世帯（男性）		40		40
一人親世帯（女性）			521	521
不明		7	11	18
合計	3,586	148	767	4,501

## &lt; 世帯集計対象内訳 &gt;

調査票は「父親用」「母親用」共通で同じ内容としたので、世帯に関する項目などが重複している。（例：同居している人、現在の子ども数、子どもの年齢など）これらについては、父母の個人データでなく、世帯集計を実施し、世帯の代表として以下のサンプルを集計対象とした。

女性回答者全数	4,353
男性単独回答者	148
合計	4,501

## &lt; 世代観継承項目（設問[6]）集計対象内訳 &gt;

設問[6]全117項目回答（男性）	2,504
設問[6]全117項目回答（女性）	2,849
合計	5,353

## C-2. 「子育てに関するアンケート調査」男女別集計表

[1]あな あなたご自身のことについてうかがいます

表1 1. 性別

	件数	割合
1. 男	3,734	46.2%
2. 女	4,353	53.8%
合計	8,087	100.0%

表1 2. 年齢

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 19歳以下	2	0.0%	1	0.0%	1	0.0%
2. 20～24歳	187	2.3%	61	1.6%	126	2.9%
3. 25～29歳	1,155	14.3%	389	10.4%	766	17.6%
4. 30～34歳	2,842	35.1%	1,106	29.6%	1,736	39.9%
5. 35～39歳	2,493	30.8%	1,223	32.8%	1,270	29.2%
6. 40歳以上	1,391	17.2%	947	25.4%	444	10.2%
無回答・不明	17	0.2%	7	0.2%	10	0.2%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表1 3. あなたには兄弟姉妹がいますか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. いる	7,559	93.5%	3,497	93.7%	4,062	93.3%
2. いない	506	6.3%	227	6.1%	279	6.4%
無回答・不明	22	0.3%	10	0.3%	12	0.3%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表1 4. 現在の居住地(地域)にどれくらいの期間住んでいますか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 2年未満	1,026	12.7%	437	11.7%	589	13.5%
2. 2～4年	2,137	26.4%	945	25.3%	1,192	27.4%
3. 5～9年	2,372	29.3%	989	26.5%	1,383	31.8%
4. 10～14年	878	10.9%	373	10.0%	505	11.6%
5. 15～19年	248	3.1%	123	3.3%	125	2.9%
6. 20年以上	1,396	17.3%	852	22.8%	544	12.5%
無回答・不明	30	0.4%	15	0.4%	15	0.3%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表1 5. あなたが最後に学んだ(または現在学んでいる)学校は次のどれですか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 中学	276	3.4%	160	4.3%	116	2.7%
2. 高校	3,145	38.9%	1,402	37.6%	1,743	40.0%
3. 専門・専修学校	1,339	16.6%	476	12.8%	863	19.8%
4. 短大・高専	935	11.6%	122	3.3%	813	18.7%
5. 大学	2,127	26.3%	1,395	37.4%	732	16.8%
6. 大学院	205	2.5%	152	4.1%	53	1.2%
7. その他	33	0.4%	17	0.5%	16	0.4%
無回答・不明	27	0.3%	10	0.3%	17	0.4%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表1 6. あなたは現在、結婚していますか。あるいはこれまでに結婚したことがありますか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 結婚している（配偶者またはパートナーがいる）	7,508	92.8%	3,687	98.7%	3,821	87.8%
2. 結婚していたが、離別した	462	5.7%	32	0.9%	430	9.9%
3. 結婚していたが、死別した	31	0.4%	5	0.1%	26	0.6%
4. 未婚	68	0.8%	3	0.1%	65	1.5%
無回答・不明	18	0.2%	7	0.2%	11	0.2%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表1 7. あなたは現在、どなたと一緒に暮らしていますか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 配偶者（パートナー）と子ども	5,728	70.8%	2,820	75.5%	2,908	66.8%
2. 親・配偶者（パートナー）と子ども	1,659	20.5%	814	21.8%	845	19.4%
3. 子どもと	422	5.2%	18	0.5%	404	9.3%
4. その他	256	3.2%	72	1.9%	184	4.2%
無回答・不明	22	0.3%	10	0.3%	12	0.3%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表1 8. あなたのご職業などは、次のどれに当たりますか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 勤め人（常勤）	4,950	61.2%	3,004	80.5%	1,946	44.7%
2. 勤め人（非常勤・パートタイム）	1,390	17.2%	38	1.0%	1,352	31.1%
3. 自営業（農林漁業の自営を含む）	816	10.1%	466	12.5%	350	8.0%
4. 会社経営	184	2.3%	146	3.9%	38	0.9%
5. 学生（就学中）	34	0.4%	13	0.4%	21	0.5%
6. 無職	518	6.4%	17	0.5%	501	11.5%
7. その他	152	1.9%	33	0.9%	119	2.7%
8. 重複	21	0.3%	8	0.2%	13	0.3%
無回答・不明	22	0.3%	9	0.2%	13	0.3%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

[ 2 ] お子さんとの生活についていかがいます。

表2 1. おさんは何人いますか

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 1人	2,696	33.3%	1,168	31.3%	1,528	35.1%
2. 2人	3,732	46.2%	1,775	47.5%	1,957	45.0%
3. 3人	1,414	17.5%	676	18.1%	738	17.0%
4. 4人	183	2.3%	81	2.2%	102	2.3%
5. 5人	29	0.4%	14	0.4%	15	0.3%
6. 6人	4	0.1%	2	0.1%	2	0.1%
7. 7人	4	0.1%	2	0.1%	2	0.1%
無回答・不明	25	0.3%	16	0.4%	9	0.2%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表2 2. お子さん（達）の年齢は、次の項目のどれに当てはまりますか。（複数回答）

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 2歳未満	2,034	25.2%	978	26.2%	1,056	24.3%
2. 2歳～4歳未満	3,568	44.1%	1,660	44.5%	1,908	43.8%
3. 4歳～就学前	5,011	62.0%	2,289	61.3%	2,722	62.5%
4. 小学生	2,631	32.5%	1,241	33.2%	1,390	31.9%
5. 中学生	337	4.2%	157	4.2%	180	4.1%
6. 高校	126	1.6%	60	1.6%	66	1.5%
7. その他	79	1.0%	34	0.9%	45	1.0%
MA回答数合計	13,786	170.5%	6,419	171.9%	7,367	169.2%
無回答・不明	34	0.4%	21	0.6%	13	0.3%
MA回答者数合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表2 3. お子さん(達)の健康状態はいかがですか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 健康	7,269	89.9%	3,397	91.0%	3,872	89.0%
2. 病気がち	484	6.0%	210	5.6%	274	6.3%
3. 長期間にわたる医療や支援が必要	261	3.2%	95	2.5%	166	3.8%
無回答・不明	73	0.9%	32	0.9%	41	0.9%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表2 4. お子さん(達)のことで心配ごとがありますか。

2. 4. 1. からだのこと

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 心配なことがある	815	10.1%	364	9.8%	451	10.4%
2. 心配なことが少しある	2,796	34.6%	1,150	30.8%	1,646	37.8%
3. 心配なことはない	4,254	52.6%	2,100	56.2%	2,154	49.5%
無回答・不明	222	2.8%	120	3.2%	102	2.3%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

2. 4. 2. こころや行動のこと

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 心配なことがある	889	11.0%	332	8.9%	557	12.8%
2. 心配なことが少しある	3,187	39.4%	1,313	35.2%	1,874	43.1%
3. 心配なことはない	3,815	47.2%	1,981	53.1%	1,834	42.1%
無回答・不明	196	2.4%	108	2.9%	88	2.0%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

2. 4. 3. その他、生活上のこと

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 心配なことがある	817	10.1%	332	8.9%	485	11.1%
2. 心配なことが少しある	2,793	34.5%	1,146	30.7%	1,647	37.8%
3. 心配なことはない	4,192	51.8%	2,109	56.5%	2,083	47.9%
無回答・不明	285	3.5%	147	3.9%	138	3.2%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表2-5. あなたは日頃、お子さん(乳・幼児)にどのように関わっていますか。

2-5-1. 子どものやることは危なっかしいので、ついて手を出したり口を出す。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. いつもそうする	740	9.2%	308	8.3%	432	9.9%
2. 時々そうする	5,244	64.8%	2,316	62.0%	2,928	67.3%
3. あまりそうしない	1,766	21.8%	879	23.5%	887	20.4%
4. しない	263	3.3%	182	4.9%	81	1.9%
無回答・不明	74	0.9%	49	1.3%	25	0.6%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

2-5-2. 子どもが何かできなくて困っている時は、励ましたりアドバイスする

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. いつもそうする	3,212	39.7%	1,161	31.1%	2,051	47.1%
2. 時々そうする	4,388	54.3%	2,212	59.2%	2,176	50.0%
3. あまりそうしない	359	4.4%	269	7.2%	90	2.1%
4. しない	58	0.7%	46	1.2%	12	0.3%
無回答・不明	70	0.9%	46	1.2%	24	0.6%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

2-5-3. 親が決めた通りに行動するように、子どもに指示している

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. いつもそうする	545	6.7%	279	7.5%	266	6.1%
2. 時々そうする	3,733	46.2%	1,573	42.1%	2,160	49.8%
3. あまりそうしない	2,856	35.3%	1,374	36.8%	1,482	34.1%
4. しない	864	10.7%	451	12.1%	413	9.5%
無回答・不明	89	1.1%	57	1.5%	32	0.7%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-5-4. 子どもの話すことに耳を傾け、よく聞くようにしている

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. いつもそうする	4,395	54.4%	1,784	47.8%	2,611	60.0%
2. 時々そうする	3,149	38.9%	1,576	42.2%	1,573	36.1%
3. あまりそうしない	403	5.0%	277	7.4%	126	2.9%
4. しない	40	0.5%	36	1.0%	4	0.1%
無回答・不明	100	1.2%	61	1.6%	39	0.9%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-5-5. 抱きしめたり、かわいいといった愛情表現をする

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. いつもそうする	5,023	62.1%	1,852	49.6%	3,171	72.9%
2. 時々そうする	2,530	31.3%	1,489	39.9%	1,041	23.9%
3. あまりそうしない	402	5.0%	295	7.9%	107	2.5%
4. しない	61	0.8%	52	1.4%	9	0.2%
無回答・不明	71	0.9%	46	1.2%	25	0.6%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-5-6. 出来るだけ子どもと遊ぶようにしている

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. いつもそうする	3,072	38.0%	1,422	38.1%	1,650	37.9%
2. 時々そうする	4,027	49.8%	1,822	48.8%	2,205	50.7%
3. あまりそうしない	854	10.6%	399	10.7%	455	10.5%
4. しない	57	0.7%	43	1.2%	14	0.3%
無回答・不明	77	1.0%	48	1.3%	29	0.7%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-5-7. 汚したり散らかしたりするような遊びは、させないようにしている

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. いつもそうする	219	2.7%	131	3.5%	88	2.0%
2. 時々そうする	2,186	27.0%	900	24.1%	1,286	29.5%
3. あまりそうしない	3,582	44.3%	1,676	44.9%	1,906	43.8%
4. しない	2,005	24.8%	968	25.9%	1,037	23.8%
無回答・不明	95	1.2%	59	1.6%	36	0.8%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-5-8. 家の中は、子どもが自由に安心して遊べるようにしている

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. いつもそうする	4,662	57.7%	1,847	49.5%	2,815	64.7%
2. 時々そうする	2,476	30.6%	1,305	35.0%	1,171	26.9%
3. あまりそうしない	759	9.4%	454	12.2%	305	7.0%
4. しない	114	1.4%	81	2.2%	33	0.8%
無回答・不明	76	0.9%	47	1.3%	29	0.7%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表2-6. あなたは普段の生活で、お子さん(乳・幼児)と過ごしている時どのようなお気持ちですか。

## 2-6-1. 充実感がある

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. いつもそう思う	3,789	46.9%	1,884	50.5%	1,905	43.8%
2. 時々そう思う	3,692	45.7%	1,596	42.7%	2,096	48.2%
3. あまりそう思わない	478	5.9%	181	4.9%	297	6.8%
4. そう思わない	42	0.5%	23	0.6%	19	0.4%
無回答・不明	86	1.1%	50	1.3%	36	0.8%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-6-2. 楽しい

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. いつもそう思う	4,545	56.2%	2,227	59.6%	2,318	53.3%
2. 時々そう思う	3,275	40.5%	1,378	36.9%	1,897	43.6%
3. あまりそう思わない	187	2.3%	77	2.1%	110	2.5%
4. そう思わない	13	0.2%	8	0.2%	5	0.1%
無回答・不明	67	0.8%	44	1.2%	23	0.5%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-6-3.面白いことや発見がある

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. いつもそう思う	4,545	56.2%	1,933	51.8%	2,612	60.0%
2. 時々そう思う	3,281	40.6%	1,623	43.5%	1,658	38.1%
3. あまりそう思わない	169	2.1%	119	3.2%	50	1.2%
4. そう思わない	18	0.2%	9	0.2%	9	0.2%
無回答・不明	74	0.9%	50	1.3%	24	0.6%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-6-4.子どもが可愛い

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. いつもそう思う	6,683	82.6%	3,126	83.7%	3,557	81.7%
2. 時々そう思う	1,251	15.5%	529	14.2%	722	16.6%
3. あまりそう思わない	61	0.8%	28	0.8%	33	0.8%
4. そう思わない	16	0.2%	7	0.2%	9	0.2%
無回答・不明	76	0.9%	44	1.2%	32	0.7%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-6-5.つまらない

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. いつもそう思う	40	0.5%	18	0.5%	22	0.5%
2. 時々そう思う	812	10.0%	273	7.3%	539	12.4%
3. あまりそう思わない	1,986	24.6%	902	24.2%	1,084	24.9%
4. そう思わない	5,159	63.8%	2,484	66.5%	2,675	61.5%
無回答・不明	90	1.1%	57	1.5%	33	0.8%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-6-6.大変で、どうしたらよいかわからない

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. いつもそう思う	122	1.5%	47	1.3%	75	1.7%
2. 時々そう思う	2,207	27.3%	813	21.8%	1,394	32.0%
3. あまりそう思わない	2,519	31.2%	1,185	31.7%	1,334	30.7%
4. そう思わない	3,151	39.0%	1,635	43.8%	1,516	34.8%
無回答・不明	88	1.1%	54	1.5%	34	0.8%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-6-7.わずらわしくて、イライラする

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. いつもそう思う	90	1.1%	33	0.9%	57	1.3%
2. 時々そう思う	3,144	38.9%	1,066	28.6%	2,078	47.7%
3. あまりそう思わない	2,463	30.5%	1,253	33.6%	1,210	27.8%
4. そう思わない	2,319	28.7%	1,341	35.9%	978	22.5%
無回答・不明	71	0.9%	41	1.1%	30	0.7%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-6-8.子育ての犠牲になっている感じがする

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. いつもそう思う	76	0.9%	27	0.7%	49	1.1%
2. 時々そう思う	1,343	16.6%	419	11.2%	924	21.2%
3. あまりそう思わない	2,393	29.6%	1,090	29.2%	1,303	29.9%
4. そう思わない	4,210	52.1%	2,157	57.8%	2,053	47.2%
無回答・不明	65	0.8%	41	1.1%	24	0.6%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表2 SQ6 1.犠牲についてどのように思いますか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 犠牲感はあるが、苦にならない。	940	50.0%	353	55.0%	587	47.4%
2. しかたがないと思うので、がまんしている。	878	46.7%	275	42.8%	603	48.7%
3. 育児をすることはもう限界にきている。	13	0.7%	4	0.6%	9	0.7%
4. その他	49	2.6%	10	1.6%	39	3.2%
合計	1,880	100.0%	642	100.0%	1,238	100.0%

表2 SQ6 2.どのようなことが犠牲になっていると感じますか。(複数回答)

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 仕事や学業	871	46.3%	207	32.2%	664	53.6%
2. 趣味や娯楽	972	51.7%	355	55.3%	617	49.8%
3. 自由や気楽さ	1,221	64.9%	369	57.5%	852	68.8%
4. 配偶者(パートナー)との関係	293	15.6%	123	19.2%	170	13.7%
5. その他	70	3.7%	12	1.9%	58	4.7%
MA回答数合計	3,427	182.3%	1,066	166.0%	2,361	190.7%
無回答・不明						
MA回答者数合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表2-7. あなたは子育てをしてからの自分自身をどのように感じていますか。

2-7-1. 考えが柔軟になった

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. そう思う	4,058	50.2%	1,527	40.9%	2,531	58.1%
2. 以前からそうなので、変わらない	2,255	27.9%	1,335	35.8%	920	21.1%
3. そう思わない	1,661	20.5%	813	21.8%	848	19.5%
無回答・不明	113	1.4%	59	1.6%	54	1.2%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

2-7-2. 他人の立場や気持ちがぐみ取れるようになった

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. そう思う	4,183	51.7%	1,501	40.2%	2,682	61.6%
2. 以前からそうなので、変わらない	2,737	33.8%	1,566	41.9%	1,171	26.9%
3. そう思わない	1,056	13.1%	605	16.2%	451	10.4%
無回答・不明	111	1.4%	62	1.7%	49	1.1%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

2-7-3. 困難なことも運命的なこととして、受け止められるようになった

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. そう思う	3,736	46.2%	1,335	35.8%	2,401	55.2%
2. 以前からそうなので、変わらない	2,420	29.9%	1,381	37.0%	1,039	23.9%
3. そう思わない	1,800	22.3%	943	25.3%	857	19.7%
無回答・不明	131	1.6%	75	2.0%	56	1.3%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

2-7-4. 自分はなくてはならない存在だと気づいた

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. そう思う	5,588	69.1%	2,266	60.7%	3,322	76.3%
2. 以前からそうなので、変わらない	1,292	16.0%	845	22.6%	447	10.3%
3. そう思わない	1,097	13.6%	556	14.9%	541	12.4%
無回答・不明	110	1.4%	67	1.8%	43	1.0%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

2-7-5. 物事に積極的になった

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. そう思う	2,249	27.8%	798	21.4%	1,451	33.3%
2. 以前からそうなので、変わらない	2,779	34.4%	1,525	40.8%	1,254	28.8%
3. そう思わない	2,951	36.5%	1,344	36.0%	1,607	36.9%
無回答・不明	108	1.3%	67	1.8%	41	0.9%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

2-7-6. ささいなことが気にならなくなった

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. そう思う	2,579	31.9%	901	24.1%	1,678	38.6%
2. 以前からそうなので、変わらない	2,618	32.4%	1,431	38.3%	1,187	27.3%
3. そう思わない	2,781	34.4%	1,335	35.8%	1,446	33.2%
無回答・不明	109	1.4%	67	1.8%	42	1.0%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-7-7. 感受性が豊かになった

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. そう思う	3,353	41.5%	1,251	33.5%	2,102	48.3%
2. 以前からそうなので、変わらない	2,707	33.5%	1,374	36.8%	1,333	30.6%
3. そう思わない	1,897	23.5%	1,032	27.6%	865	19.9%
無回答・不明	130	1.6%	77	2.1%	53	1.2%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-7-8. 思い通りにならないことがあるのに気づいた

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. そう思う	4,065	50.3%	1,498	40.1%	2,567	59.0%
2. 以前からそうなので、変わらない	2,997	37.1%	1,564	41.9%	1,433	32.9%
3. そう思わない	926	11.5%	611	16.4%	315	7.2%
無回答・不明	99	1.2%	61	1.6%	38	0.9%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-7-9. 子育てに向いていないことに気づいた

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. そう思う	1,037	12.8%	278	7.5%	759	17.4%
2. 以前からそうなので、変わらない	931	11.5%	441	11.8%	490	11.3%
3. そう思わない	5,989	74.1%	2,942	78.8%	3,047	70.0%
無回答・不明	130	1.6%	73	2.0%	57	1.3%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-7-10. 子どもが好きになった

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. そう思う	2,821	34.9%	1,258	33.7%	1,563	35.9%
2. 以前からそうなので、変わらない	4,182	51.7%	2,060	55.2%	2,122	48.8%
3. そう思わない	986	12.2%	353	9.5%	633	14.5%
無回答・不明	98	1.2%	63	1.7%	35	0.8%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表2-8. あなたがお子さんをもつ理由をうかがいます。

## 2-8-1. 子どもを生み育てることは、よい経験だと思うので

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. はい	6,717	83.1%	2,838	76.0%	3,879	89.1%
2. いいえ	996	12.3%	703	18.8%	293	6.7%
無回答・不明	374	4.6%	193	5.2%	181	4.2%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-8-2. 子どもを生み育てることは、男としてまたは女としての、自分の存在が感じられるので

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. はい	5,135	63.5%	2,309	61.8%	2,826	64.9%
2. いいえ	2,423	30.0%	1,201	32.2%	1,222	28.1%
無回答・不明	529	6.5%	224	6.0%	305	7.0%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-8-3. 子どもに継承したいもの(技能や伝統など)があるので

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. はい	1,912	23.6%	1,077	28.8%	835	19.2%
2. いいえ	5,582	69.0%	2,416	64.7%	3,166	72.7%
無回答・不明	593	7.3%	241	6.5%	352	8.1%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-8-4. 子どもは楽しみやうるおいを与えてくれるので

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. はい	7,065	87.4%	3,172	85.0%	3,893	89.4%
2. いいえ	665	8.2%	396	10.6%	269	6.2%
無回答・不明	357	4.4%	166	4.5%	191	4.4%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-8-5. 子どもは活気があるので

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. はい	6,247	77.3%	2,841	76.1%	3,406	78.2%
2. いいえ	1,285	15.9%	657	17.6%	628	14.4%
無回答・不明	555	6.9%	236	6.3%	319	7.3%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-8-6. 子どもはほしくないが、大人として認められたかったので

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. はい	116	1.4%	69	1.9%	47	1.1%
2. いいえ	7,359	91.0%	3,405	91.2%	3,954	90.8%
無回答・不明	612	7.6%	260	7.0%	352	8.1%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 2-8-7. その他

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
解答	419	5.2%	172	4.6%	247	5.7%
無回答・不明	7,668	94.8%	3,562	95.4%	4,106	94.3%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表2-9. あなたは、全部で何人のお子さんを生む予定ですか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 1人	878	10.9%	317	8.5%	561	12.9%
2. 2人	4,167	51.5%	1,916	51.3%	2,251	51.7%
3. 3人	2,083	25.8%	999	26.8%	1,084	24.9%
4. 4人	228	2.8%	104	2.8%	124	2.9%
5. 5人	48	0.6%	27	0.7%	21	0.5%
6. 6人	6	0.1%	4	0.1%	2	0.1%
7. 7人	4	0.1%	2	0.1%	2	0.1%
8. 8人	1	0.0%	1	0.0%	0	0.0%
9. 9人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10. 10人以上	1	0.0%	1	0.0%	0	0.0%
無回答・不明	671	8.3%	363	9.7%	308	7.1%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表2-10. あなたは本当は、全部で何人のお子さんがほしいと思いますか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 本当はいらない	174	2.2%	56	1.5%	118	2.7%
2. ( )人ほしい	7,561	93.5%	3,482	93.3%	4,079	93.7%
無回答・不明	352	4.4%	196	5.3%	156	3.6%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 欲しい人数

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 1人	302	3.7%	114	3.1%	188	4.3%
2. 2人	2,781	34.4%	1,340	35.9%	1,441	33.1%
3. 3人	3,541	43.8%	1,603	42.9%	1,938	44.5%
4. 4人	558	6.9%	193	5.2%	365	8.4%
5. 5人	248	3.1%	152	4.1%	96	2.2%
6. 6人	13	0.2%	8	0.2%	5	0.1%
7. 7人	6	0.1%	5	0.1%	1	0.0%
8. 8人	4	0.1%	2	0.1%	2	0.1%
9. 9人	6	0.1%	4	0.1%	2	0.1%
10. 10人以上	28	0.4%	26	0.7%	2	0.1%
無回答・不明	600	7.4%	287	7.7%	313	7.2%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

[ 3 ] 日常生活についていかがいます。

表3-1. 日中、お子さん(乳・幼児)の世話を主にしている方はどなたですか。(複数回答)

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. あなた自身	2,363	29.2%	437	11.7%	1,926	44.3%
2. 配偶者(パートナー)	2,649	32.8%	2,167	58.0%	482	11.1%
3. 祖父母(自分またはパートナーの親)	1,435	17.7%	729	19.5%	706	16.2%
4. 1~3以外の家族や親族	134	1.7%	59	1.6%	75	1.7%
5. 保育者(保育園や家庭福祉員)	6,377	78.9%	2,681	71.8%	3,696	84.9%
6. 幼稚園の先生	613	7.6%	297	8.0%	316	7.3%
7. ベビーシッター	53	0.7%	23	0.6%	30	0.7%
8. 友人・知人	44	0.5%	16	0.4%	28	0.6%
9. その他	25	0.3%	7	0.2%	18	0.4%
MA回答数合計	13,693	169.3%	6,416	171.8%	7,277	167.2%
無回答・不明	173	2.1%	106	2.8%	67	1.5%
MA回答者数合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表3-2. あなたがお子さん(乳・幼児)の世話を一時的にできない時、どなたに世話を頼みますか。(複数回答)

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 配偶者(パートナー)	4,820	59.6%	2,334	62.5%	2,486	57.1%
2. 祖父母(自分または配偶者・パートナーの親)	5,959	73.7%	2,653	71.1%	3,306	76.0%
3. 1~2以外の家族や親族	989	12.2%	395	10.6%	594	13.7%
4. 保育園の一時的保育サービス	1,124	13.9%	510	13.7%	614	14.1%
5. 幼稚園の延長保育	439	5.4%	213	5.7%	226	5.2%
6. ベビーシッター	267	3.3%	108	2.9%	159	3.7%
7. 友人・知人	788	9.7%	215	5.8%	573	13.2%
8. その他	143	1.8%	40	1.1%	103	2.4%
9. 頼める人がいない	281	3.5%	96	2.6%	185	4.3%
MA回答数合計	14,810	183.1%	6,564	175.8%	8,246	189.4%
無回答・不明	188	2.3%	118	3.2%	70	1.6%
MA回答者数合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表3-3. あなたの家庭では、家事をしているのはどなたですか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 主に自分がしている	3,464	42.8%	71	1.9%	3,393	78.0%
2. 夫婦で分担を決めている	1,099	13.6%	596	16.0%	503	11.6%
3. 主に配偶者(パートナー)がしている	2,829	35.0%	2,802	75.0%	27	0.6%
4. 主にその他の家族がしている	368	4.6%	118	3.2%	250	5.7%
5. その他	188	2.3%	62	1.7%	126	2.9%
無回答・不明	139	1.7%	85	2.3%	54	1.2%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表3-4. あなたと配偶者(パートナー)との関係や考え方についてうかがいます。

3-4-1. 私達の子育てや教育に関する考え方はほぼ一致している

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. はい	5,157	68.7%	2,496	67.7%	2,661	69.6%
2. いいえ	1,510	20.1%	741	20.1%	769	20.1%
無回答・不明	841	11.2%	450	12.2%	391	10.3%
合計	7,508	100.0%	3,687	100.0%	3,821	100.0%

3-4-2. 私達は家族にとって大切なことを話し合っている

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. はい	5,386	71.7%	2,681	72.7%	2,705	70.8%
2. いいえ	1,323	17.6%	595	16.1%	728	19.0%
無回答・不明	799	10.7%	411	11.2%	388	10.2%
合計	7,508	100.0%	3,687	100.0%	3,821	100.0%

3-4-3. 私達はどちらかというと協力し合ってる

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. はい	6,070	80.8%	3,025	82.0%	3,045	79.7%
2. いいえ	937	12.5%	401	10.9%	536	14.0%
無回答・不明	501	6.7%	261	7.1%	240	6.3%
合計	7,508	100.0%	3,687	100.0%	3,821	100.0%

3-4-4. 私達は喧嘩をしたり感情をぶつけあうことがよくある

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. はい	3,894	51.9%	1,897	51.4%	1,997	52.2%
2. いいえ	2,816	37.5%	1,388	37.6%	1,428	37.4%
無回答・不明	798	10.6%	402	11.0%	396	10.4%
合計	7,508	100.0%	3,687	100.0%	3,821	100.0%

3-4-5. 私達はどちらかという仲のよい夫婦だ

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. はい	5,999	79.9%	3,024	82.0%	2,975	77.9%
2. いいえ	707	9.4%	286	7.8%	421	11.0%
無回答・不明	802	10.7%	377	10.2%	425	11.1%
合計	7,508	100.0%	3,687	100.0%	3,821	100.0%

表3-5. あなたは現在の生活をどのように感じていますか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 満足	3,129	38.7%	1,715	45.9%	1,414	32.5%
2. やや満足	3,436	42.5%	1,500	40.2%	1,936	44.5%
3. やや満足していない	990	12.2%	317	8.5%	673	15.5%
4. 満足していない	438	5.4%	144	3.9%	294	6.8%
無回答・不明	94	1.2%	58	1.6%	36	0.8%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

[ 4 ] 現在のあなたと親ごさんの関係などについていかがいます。

表4-1. あなたのご両親の現在の年齢などをおうかがいします。

4-1-1. 私の父親

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 私の父の健在( )件	6,138	75.9%	2,722	72.9%	3,416	78.5%
2. 死亡	1,618	20.0%	855	22.9%	763	17.5%
3. 不明	195	2.4%	73	2.0%	122	2.8%
無回答・不明	136	1.7%	84	2.3%	52	1.2%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

4-1-2. 私の母親

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 私の母の健在( )件	7,334	90.7%	3,320	88.9%	4,014	92.2%
2. 死亡	574	7.1%	296	7.9%	278	6.4%
3. 不明	68	0.8%	40	1.1%	28	0.6%
無回答・不明	111	1.4%	78	2.1%	33	0.8%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

4-1-3. 配偶者(またはパートナー)の父親

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 健在( )歳	5,581	69.0%	2,770	74.2%	2,811	64.6%
2. 死亡	1,532	18.9%	640	17.1%	892	20.5%
3. 不明	171	2.1%	97	2.6%	74	1.7%
4. 非該当	561	6.9%	40	1.1%	521	12.0%
無回答・不明	242	3.0%	187	5.0%	55	1.2%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

4-1-4. 配偶者(またはパートナー)の母親

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 健在( )歳	6,734	83.3%	3,272	87.6%	3,462	79.5%
2. 死亡	530	6.6%	229	6.1%	301	6.9%
3. 不明	105	1.3%	55	1.5%	50	1.2%
4. 非該当	561	6.9%	40	1.1%	521	12.0%
無回答・不明	157	1.9%	138	3.7%	19	0.4%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

## 4-1-1. 父親の年齢

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 49歳以下	110	1.8%	37	1.4%	73	2.1%
2. 50～54歳	333	5.4%	119	4.4%	214	6.3%
3. 55～59歳	930	15.2%	327	12.0%	603	17.6%
4. 60～64歳	1,784	29.0%	717	26.3%	1,067	31.2%
5. 65～69歳	1,587	25.9%	733	26.9%	854	25.0%
6. 70～74歳	821	13.4%	428	15.7%	393	11.5%
7. 75～79歳	282	4.6%	173	6.4%	109	3.2%
8. 80歳以上	116	1.9%	80	2.9%	36	1.1%
無回答・不明	175	2.8%	108	4.0%	67	2.0%
合計	6,138	100.0%	2,722	100.0%	3,416	100.0%

## 4-1-2. 母親の年齢

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 49歳以下	243	3.3%	80	2.4%	163	4.1%
2. 50～54歳	742	10.1%	264	8.0%	478	11.9%
3. 55～59歳	1,669	22.8%	637	19.2%	1,032	25.7%
4. 60～64歳	2,134	29.1%	922	27.8%	1,212	30.2%
5. 65～69歳	1,383	18.9%	710	21.4%	673	16.7%
6. 70～74歳	656	8.9%	376	11.3%	280	7.0%
7. 75～79歳	219	3.0%	140	4.2%	79	2.0%
8. 80歳以上	84	1.1%	68	2.0%	16	0.4%
無回答・不明	204	2.8%	123	3.7%	81	2.0%
合計	7,334	100.0%	3,320	100.0%	4,014	100.0%

## 4-1-3. 配偶者（またはパートナー）の父親

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 49歳以下	93	1.7%	47	1.7%	46	1.6%
2. 50～54歳	254	4.6%	139	5.0%	115	4.1%
3. 55～59歳	760	13.6%	407	14.7%	353	12.5%
4. 60～64歳	1,553	27.8%	826	29.8%	727	25.9%
5. 65～69歳	1,458	26.1%	697	25.2%	761	27.1%
6. 70～74歳	718	12.9%	289	10.4%	429	15.3%
7. 75～79歳	265	4.7%	102	3.7%	163	5.8%
8. 80歳以上	112	2.0%	27	1.0%	85	3.0%
無回答・不明	368	6.6%	236	8.5%	132	4.7%
合計	5,581	100.0%	2,770	100.0%	2,811	100.0%

## 4-1-4. 配偶者（またはパートナー）の母親

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 49歳以下	204	3.0%	118	3.6%	86	2.5%
2. 50～54歳	590	8.8%	316	9.7%	274	7.9%
3. 55～59歳	1,424	21.2%	774	23.7%	650	18.8%
4. 60～64歳	1,913	28.4%	946	28.9%	967	27.9%
5. 65～69歳	1,264	18.8%	538	16.4%	726	21.0%
6. 70～74歳	620	9.2%	224	6.8%	396	11.4%
7. 75～79歳	211	3.1%	63	1.9%	148	4.3%
8. 80歳以上	81	1.2%	15	0.5%	66	1.9%
無回答・不明	427	6.3%	278	8.5%	149	4.3%
合計	6,734	100.0%	3,272	100.0%	3,462	100.0%

表4-2. 親さんからあなた（またはあなたの家族）への経済的援助についてうかがいます

## 4-2-1. 親から住宅や家賃など住まいの援助を受けている

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. はい	1,459	18.3%	669	18.4%	790	18.3%
2. いいえ	6,239	78.4%	2,847	78.1%	3,392	78.7%
無回答・不明	257	3.2%	128	3.5%	129	3.0%
合計	7,955	100.0%	3,644	100.0%	4,311	100.0%

4-2-2. 親から上記以外の金銭的援助を受けている

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. はい	1,042	13.1%	453	12.4%	589	13.7%
2. いいえ	6,646	83.5%	3,056	83.9%	3,590	83.3%
無回答・不明	267	3.4%	135	3.7%	132	3.1%
合計	7,955	100.0%	3,644	100.0%	4,311	100.0%

4-2-3. 同居している親から私の家族の生活費（食費・光熱費）の援助を受けている

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. はい	829	10.4%	357	9.8%	472	11.0%
2. いいえ	2,659	33.4%	1,274	35.0%	1,385	32.1%
3. 非該当	3,940	49.5%	1,803	49.5%	2,137	49.6%
無回答・不明	527	6.6%	210	5.8%	317	7.4%
合計	7,955	100.0%	3,644	100.0%	4,311	100.0%

表4 SQ2 1. 親ごさんから援助を受けられて、あなたの生活はいかがですか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 助かっている	1,782	74.4%	770	72.8%	1,012	75.6%
2. 変わらない	171	7.1%	85	8.0%	86	6.4%
無回答・不明	443	18.5%	203	19.2%	240	17.9%
合計	2,396	100.0%	1,058	100.0%	1,338	100.0%

表4 SQ2 2. 親ごさんから経済的援助を受けていることについて、あなたはどのように思っていますか。

4 SQ2 2 A. 親ごさんに対して

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 親として普通のことをしてくれている（当たり前）	179	7.5%	80	7.6%	99	7.4%
2. 親が喜んでやってくれているので、いいと思う	294	12.3%	142	13.4%	152	11.4%
3. 親に申し訳ないと思う	1,276	53.3%	555	52.5%	721	53.9%
4. その他	179	7.5%	64	6.1%	115	8.6%
無回答・不明	468	19.5%	217	20.5%	251	18.8%
合計	2,396	100.0%	1,058	100.0%	1,338	100.0%

4 SQ2 2 B. 自分自身の気持ち

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 将来、親の世話や援助をするのだからこれでいいと思う	261	10.9%	123	11.6%	138	10.3%
2. 現状ではやむを得ない	1,047	43.7%	457	43.2%	590	44.1%
3. 自立できないので、残念（不甲斐ない）	405	16.9%	173	16.4%	232	17.3%
4. その他	185	7.7%	77	7.3%	108	8.1%
無回答・不明	498	20.8%	228	21.6%	270	20.2%
合計	2,396	100.0%	1,058	100.0%	1,338	100.0%

表4-3. 親ごさんからの、経済以外の援助（世話など）についていかがいます。

あなたは親からあなた（またはあなたの家族）の身のまわり世話など、家事や育児を助けてもらっていますか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. はい	4,082	51.3%	1,775	48.7%	2,307	53.5%
2. いいえ	3,395	42.7%	1,607	44.1%	1,788	41.5%
無回答・不明	478	6.0%	262	7.2%	216	5.0%
合計	7,955	100.0%	3,644	100.0%	4,311	100.0%

表4 SQ3 1. 親ごさんから世話などの援助を受けられて、いかがですか。

4 SQ3 1 1. 身体的に

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 助かっている	3,594	87.5%	1,534	85.4%	2,060	89.1%
2. 変わらない	394	9.6%	204	11.4%	190	8.2%
無回答・不明	121	2.9%	59	3.3%	62	2.7%
合計	4,109	100.0%	1,797	100.0%	2,312	100.0%

4 SQ3 1 2.精神的に

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1.助かっている	3,503	85.3%	1,503	83.6%	2,000	86.5%
2.変わらない	471	11.5%	224	12.5%	247	10.7%
無回答・不明	135	3.3%	70	3.9%	65	2.8%
合計	4,109	100.0%	1,797	100.0%	2,312	100.0%

4 SQ3 1 3.経済的に

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1.助かっている	2,382	58.0%	1,042	58.0%	1,340	58.0%
2.変わらない	1,534	37.3%	661	36.8%	873	37.8%
無回答・不明	193	4.7%	94	5.2%	99	4.3%
合計	4,109	100.0%	1,797	100.0%	2,312	100.0%

表4 SQ3 2.親ごさんから世話などの援助を受けていることについて、あなたはどのように思いますか。

4 SQ3 2 A.親ごさんに対して

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1.親として普通のことをしてくれている(当たり前)	323	7.9%	183	10.2%	140	6.1%
2.親が喜んでやってくれているので、いいと思う	1,338	32.6%	639	35.6%	699	30.2%
3.親に申し訳ないと思う	1,828	44.5%	767	42.7%	1,061	45.9%
4.その他	441	10.7%	132	7.4%	309	13.4%
無回答・不明	179	4.4%	76	4.2%	103	4.5%
合計	4,109	100.0%	1,797	100.0%	2,312	100.0%

4 SQ3 2 B.自分自身の気持ち

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1.将来、親の世話や援助をするのだからこれでいいと	472	11.5%	230	12.8%	242	10.5%
2.現状ではやむをえない	2,638	64.2%	1,137	63.3%	1,501	64.9%
3.自立できないので、残念(不甲斐ない)	350	8.5%	147	8.2%	203	8.8%
4.その他	462	11.2%	197	11.0%	265	11.5%
無回答・不明	187	4.6%	86	4.8%	101	4.4%
合計	4,109	100.0%	1,797	100.0%	2,312	100.0%

表4-4.あなたは現在、親ごさんにどのような援助をしていますか。

4-4-1.経済的(金銭的、物質的)に助けている

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1.はい	1,375	17.3%	628	17.2%	747	17.3%
2.いいえ	5,722	71.9%	2,606	71.5%	3,116	72.3%
無回答・不明	858	10.8%	410	11.3%	448	10.4%
合計	7,955	100.0%	3,644	100.0%	4,311	100.0%

4-4-2.親の心配事などを聞き、精神的に助けている

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1.はい	3,790	47.6%	1,405	38.6%	2,385	55.3%
2.いいえ	3,377	42.5%	1,832	50.3%	1,545	35.8%
無回答・不明	788	9.9%	407	11.2%	381	8.8%
合計	7,955	100.0%	3,644	100.0%	4,311	100.0%

4-4-3.家事を引き受け、日常生活を助けている

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1.はい	1,198	15.1%	440	12.1%	758	17.6%
2.いいえ	5,854	73.6%	2,751	75.5%	3,103	72.0%
無回答・不明	903	11.4%	453	12.4%	450	10.4%
合計	7,955	100.0%	3,644	100.0%	4,311	100.0%

4-4-4.看病や介護などの世話をしている

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1.はい	458	5.8%	202	5.5%	256	5.9%
2.いいえ	6,544	82.3%	2,972	81.6%	3,572	82.9%
無回答・不明	953	12.0%	470	12.9%	483	11.2%
合計	7,955	100.0%	3,644	100.0%	4,311	100.0%

表4-5．あなたとあなた自身の親ごさんとの現在の日常的な関わりについてうかがいます。

父親について

4-5-1．私は父に愚痴や心配事を聞いてもらう

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1．当てはまる	196	3.2%	55	2.0%	141	4.1%
2．やや当てはまる	624	10.2%	184	6.8%	440	12.9%
3．あまり当てはまらない	1,179	19.2%	475	17.5%	704	20.6%
4．当てはまらない	3,649	59.5%	1,738	63.9%	1,911	55.9%
5．非該当	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答・不明	490	8.0%	270	9.9%	220	6.4%
合計	6,138	100.0%	2,722	100.0%	3,416	100.0%

4-5-2．私は行動を決める場合、父にアドバイスしてもらう

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1．当てはまる	170	2.8%	47	1.7%	123	3.6%
2．やや当てはまる	765	12.5%	283	10.4%	482	14.1%
3．あまり当てはまらない	1,183	19.3%	484	17.8%	699	20.5%
4．当てはまらない	3,560	58.0%	1,666	61.2%	1,894	55.4%
5．非該当	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答・不明	460	7.5%	242	8.9%	218	6.4%
合計	6,138	100.0%	2,722	100.0%	3,416	100.0%

4-5-3．父は、わたしの行動に口を挟まないが、気遣ってくれる

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1．当てはまる	1,832	29.9%	668	24.5%	1,164	34.1%
2．やや当てはまる	2,177	35.5%	964	35.4%	1,213	35.5%
3．あまり当てはまらない	743	12.1%	360	13.2%	383	11.2%
4．当てはまらない	1,037	16.9%	545	20.0%	492	14.4%
5．非該当	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答・不明	349	5.7%	185	6.8%	164	4.8%
合計	6,138	100.0%	2,722	100.0%	3,416	100.0%

4-5-4．父は、私に何をなすべきか・どのようにすべきかを指示している

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1．当てはまる	284	4.6%	85	3.1%	199	5.8%
2．やや当てはまる	971	15.8%	378	13.9%	593	17.4%
3．あまり当てはまらない	1,438	23.4%	595	21.9%	843	24.7%
4．当てはまらない	3,002	48.9%	1,436	52.8%	1,566	45.8%
5．非該当	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答・不明	443	7.2%	228	8.4%	215	6.3%
合計	6,138	100.0%	2,722	100.0%	3,416	100.0%

4-5-5．父は、相談事を持ちかけたり愚痴を言ったりして、私を頼ってる

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1．当てはまる	184	3.0%	88	3.2%	96	2.8%
2．やや当てはまる	692	11.3%	320	11.8%	372	10.9%
3．あまり当てはまらない	1,028	16.8%	484	17.8%	544	15.9%
4．当てはまらない	3,752	61.1%	1,587	58.3%	2,165	63.4%
5．非該当	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答・不明	482	7.9%	243	8.9%	239	7.0%
合計	6,138	100.0%	2,722	100.0%	3,416	100.0%

母親について

4-5-1．私は母に愚痴や心配事を聞いてもらう

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1．当てはまる	1,626	22.2%	138	4.2%	1,488	37.1%
2．やや当てはまる	1,664	22.7%	413	12.4%	1,251	31.2%
3．あまり当てはまらない	1,137	15.5%	595	17.9%	542	13.5%
4．当てはまらない	2,514	34.3%	1,902	57.3%	612	15.3%
5．非該当	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答・不明	393	5.4%	272	8.2%	121	3.0%
合計	7,334	100.0%	3,320	100.0%	4,014	100.0%

4-5-2. 私は行動を決める場合、母にアドバイスしてもらおう

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 当てはまる	650	8.9%	60	1.8%	590	14.7%
2. やや当てはまる	1,498	20.4%	271	8.2%	1,227	30.6%
3. あまり当てはまらない	1,546	21.1%	589	17.7%	957	23.8%
4. 当てはまらない	3,221	43.9%	2,117	63.8%	1,104	27.5%
5. 非該当	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答・不明	419	5.7%	283	8.5%	136	3.4%
合計	7,334	100.0%	3,320	100.0%	4,014	100.0%

4-5-3. 母は、わたしの行動に口を挟まないが、気遣ってくれる

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 当てはまる	2,321	31.7%	867	26.1%	1,454	36.2%
2. やや当てはまる	2,790	38.0%	1,252	37.7%	1,538	38.3%
3. あまり当てはまらない	924	12.6%	404	12.2%	520	13.0%
4. 当てはまらない	952	13.0%	572	17.2%	380	9.5%
5. 非該当	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答・不明	347	4.7%	225	6.8%	122	3.0%
合計	7,334	100.0%	3,320	100.0%	4,014	100.0%

4-5-4. 母は、私に何をなすべきか・どのようにすべきかを指示している

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 当てはまる	586	8.0%	97	2.9%	489	12.2%
2. やや当てはまる	1,696	23.1%	512	15.4%	1,184	29.5%
3. あまり当てはまらない	1,774	24.2%	716	21.6%	1,058	26.4%
4. 当てはまらない	2,861	39.0%	1,724	51.9%	1,137	28.3%
5. 非該当	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答・不明	417	5.7%	271	8.2%	146	3.6%
合計	7,334	100.0%	3,320	100.0%	4,014	100.0%

4-5-5. 母は、相談事を持ちかけたり愚痴を言ったりして、私を頼ってる

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 当てはまる	1,102	15.0%	309	9.3%	793	19.8%
2. やや当てはまる	2,408	32.8%	839	25.3%	1,569	39.1%
3. あまり当てはまらない	1,405	19.2%	653	19.7%	752	18.7%
4. 当てはまらない	2,016	27.5%	1,254	37.8%	762	19.0%
5. 非該当	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答・不明	403	5.5%	265	8.0%	138	3.4%
合計	7,334	100.0%	3,320	100.0%	4,014	100.0%

[ 5 ] あなたが育てこられた頃のことをうかがいます。

表5-1. あなたは中学卒業後、親さんと一年間以上離れて1人で暮らしたことはありますか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 経験がある	4,294	53.1%	2,298	61.5%	1,996	45.9%
2. 経験がない	3,504	43.3%	1,262	33.8%	2,242	51.5%
3. 非該当	124	1.5%	70	1.9%	54	1.2%
無回答・不明	165	2.0%	104	2.8%	61	1.4%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表5 SQ1 1. はじめて親と離れて暮らしたのは、何歳頃でしたか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 15～19歳	2,791	65.0%	1,468	63.9%	1,323	66.3%
2. 20～24歳	1,177	27.4%	632	27.5%	545	27.3%
3. 25～29歳	255	5.9%	156	6.8%	99	5.0%
4. 30歳～	52	1.2%	34	1.5%	18	0.9%
無回答・不明	19	0.4%	8	0.4%	11	0.6%
合計	4,294	100.0%	2,298	100.0%	1,996	100.0%

表5 SQ1 2.それは何年間くらいでしたか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 1年未満	229	5.3%	110	4.8%	119	6.0%
2. 1～3年未満	1,123	26.2%	527	22.9%	596	29.9%
3. 3年以上	2,906	67.7%	1,643	71.5%	1,263	63.3%
無回答・不明	36	0.8%	18	0.8%	18	0.9%
合計	4,294	100.0%	2,298	100.0%	1,996	100.0%

表5-2. あなたが小学・中学校の頃に、あなたのご両親のどちらかが仕事の関係などで、長期不在だったことがありますか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 不在だったことはなかった	6,338	78.4%	2,947	78.9%	3,391	77.9%
2. 父が不在だった	758	9.4%	327	8.8%	431	9.9%
3. 母が不在だった	106	1.3%	44	1.2%	62	1.4%
4. 非該当	512	6.3%	219	5.9%	293	6.7%
5. 父も母も不在だった	73	0.9%	37	1.0%	36	0.8%
無回答・不明	300	3.7%	160	4.3%	140	3.2%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表5 SQ2 1. 父不在は小・中学校を通して何年間くらいですか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 1年未満	259	31.2%	120	33.0%	139	29.8%
2. 1～3年未満	244	29.4%	110	30.2%	134	28.7%
3. 3年以上	311	37.4%	128	35.2%	183	39.2%
無回答・不明	17	2.0%	6	1.6%	11	2.3%
合計	831	100.0%	364	100.0%	467	100.0%

表5 SQ2 2. 母不在は小・中学校を通して何年間くらいですか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 1年未満	61	34.1%	26	32.1%	35	35.7%
2. 1～3年未満	37	20.7%	17	21.0%	20	20.4%
3. 3年以上	77	43.0%	37	45.7%	40	40.8%
無回答・不明	4	2.2%	1	1.2%	3	3.1%
合計	179	100.0%	81	100.0%	98	100.0%

表5-3. あなたが育てこられたご家庭について、現在どのように感じていますか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 満足している	3,504	43.3%	1,728	46.3%	1,776	40.8%
2. やや満足している	2,621	32.4%	1,181	31.6%	1,440	33.1%
3. やや不満である	1,150	14.2%	466	12.5%	684	15.7%
4. 不満である	618	7.6%	238	6.4%	380	8.7%
5. 非該当	121	1.5%	68	1.8%	53	1.2%
無回答・不明	73	0.9%	53	1.4%	20	0.5%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

表5-4. あなたは将来、育てこられたご家庭のような家庭を築いていきたいと思いませんか。

	合計		男性		女性	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. そう思う	2,257	27.9%	1,059	28.4%	1,198	27.5%
2. やや思う	2,559	31.6%	1,200	32.1%	1,359	31.2%
3. やや思わない	1,084	13.4%	474	12.7%	610	14.0%
4. そう思わない	1,934	23.9%	848	22.7%	1,086	25.0%
5. 非該当	175	2.2%	95	2.5%	80	1.8%
無回答・不明	78	1.0%	58	1.6%	20	0.5%
合計	8,087	100.0%	3,734	100.0%	4,353	100.0%

- [ 6 ] A . あなたの親ごさんはどのような生き方や態度を大切にしていたと思いますか。 A 欄に父母別にお答え下さい。  
 B . あなたは次の世代に、どのような生き方や態度を大切にしたいと思いますか。 B 欄にお答え下さい。

表6-1 男性

	A.あなたの親ごさんは				B.あなたから次の世代	
	あなたの父親		あなたの母親		回答者数	平均値
	回答者数	平均値	回答者数	平均値		
1 . 不正や悪いことを許さない	2,504	1.34	2,504	1.38	2,504	1.52
2 . 自分の言動に責任を持つ	2,504	1.17	2,504	1.13	2,504	1.59
3 . お金が大切	2,504	0.51	2,504	0.70	2,504	0.71
4 . 生活は楽しく	2,504	0.83	2,504	1.02	2,504	1.65
5 . 理想を持って生きていく	2,504	0.65	2,504	0.64	2,504	1.38
6 . 現実を重視し、成果を上げる	2,504	0.62	2,504	0.56	2,504	0.91
7 . 成り行きにまかせる	2,504	-0.23	2,504	-0.13	2,504	-0.17
8 . 仕事は生活のためにする	2,504	0.75	2,504	0.76	2,504	0.67
9 . 仕事に生きがいがある	2,504	0.78	2,504	0.44	2,504	0.87
10 . 信仰心を大事にする	2,504	-0.16	2,504	0.11	2,504	-0.16
11 . 一日一日を大切に生きていく	2,504	0.73	2,504	0.86	2,504	1.19
12 . 視野の広い考え	2,504	0.54	2,504	0.38	2,504	1.40
13 . 無駄な考えや行動をしない	2,504	0.21	2,504	0.12	2,504	0.21
14 . 論理的思考が大切	2,504	0.17	2,504	-0.05	2,504	0.49
15 . 物事は理屈通りにはならない	2,504	0.70	2,504	0.67	2,504	0.93
16 . 様々なことに挑戦する	2,504	0.37	2,504	0.31	2,504	1.18
17 . 忍耐強い	2,504	0.95	2,504	1.08	2,504	1.14
18 . 競争心をもつ	2,504	0.43	2,504	0.38	2,504	0.82
19 . ゆったりとくまえる	2,504	0.49	2,504	0.41	2,504	0.98
20 . 自分の思いを率直にあらわす	2,504	0.46	2,504	0.61	2,504	0.97
21 . 物事に対してイメージを豊かにしてみる	2,504	0.19	2,504	0.27	2,504	1.17
22 . 問題から逃げずに、誠実に対応する	2,504	0.81	2,504	0.80	2,504	1.30
23 . 人との調和を重んじる	2,504	0.88	2,504	1.04	2,504	1.33
24 . 正しいと信ずることは妥協しない	2,504	0.84	2,504	0.71	2,504	0.97
25 . 自分の限界を知る	2,504	0.36	2,504	0.34	2,504	0.54
26 . 誇りを持って生きる	2,504	0.93	2,504	0.84	2,504	1.26
27 . 自分の信念をつらぬく	2,504	0.90	2,504	0.72	2,504	1.12
28 . 夢をもつ	2,504	0.69	2,504	0.68	2,504	1.47
29 . ユーモアがある	2,504	0.43	2,504	0.49	2,504	1.31
30 . 経済的・精神的・生活面において自立する	2,504	1.19	2,504	1.01	2,504	1.43
31 . 性別で人を差別をしない	2,504	0.69	2,504	0.82	2,504	1.32
32 . 人の弱さや痛みを気づかうことができる	2,504	0.93	2,504	1.15	2,504	1.53
33 . 人の気持ちが分かる	2,504	0.76	2,504	1.00	2,504	1.46
34 . 地域や家の習わしを大切ににする	2,504	0.77	2,504	0.90	2,504	0.59
35 . 子どもとの暮らしを大切ににする	2,504	0.80	2,504	1.13	2,504	1.43
36 . 家族の支え合い・協力を大切ににする	2,504	0.86	2,504	1.15	2,504	1.47
37 . 配偶者（パートナー）との関係を大事にする	2,504	0.82	2,504	1.01	2,504	1.54
38 . 自分の子どもを慈しむ	2,504	1.08	2,504	1.34	2,504	1.56
39 . 自分の親を大切ににする	2,504	1.19	2,504	1.38	2,504	1.43

表6-2 女性

	A.あなたの親ごさんは				B.あなたから次の世代	
	あなたの父親		あなたの母親		回答者数	平均値
	回答者数	平均値	回答者数	平均値		
1. 不正や悪いことを許さない	2,849	1.41	2,849	1.46	2,849	1.59
2. 自分の言動に責任を持つ	2,849	1.19	2,849	1.24	2,849	1.67
3. お金が大切	2,849	0.53	2,849	0.79	2,849	0.81
4. 生活は楽しく	2,849	0.91	2,849	1.12	2,849	1.75
5. 理想を持って生きていく	2,849	0.64	2,849	0.69	2,849	1.45
6. 現実を重視し、成果を上げる	2,849	0.61	2,849	0.63	2,849	0.84
7. 成り行きにまかせる	2,849	-0.17	2,849	-0.07	2,849	-0.04
8. 仕事は生活のためにする	2,849	0.76	2,849	0.82	2,849	0.56
9. 仕事に生きがいがある	2,849	0.83	2,849	0.51	2,849	1.02
10. 信仰心を大事にする	2,849	-0.37	2,849	-0.07	2,849	-0.12
11. 一日一日を大切に生きていく	2,849	0.84	2,849	0.99	2,849	1.46
12. 視野の広い考え	2,849	0.59	2,849	0.52	2,849	1.51
13. 無駄な考えや行動をしない	2,849	0.23	2,849	0.17	2,849	0.19
14. 論理的思考が大切	2,849	0.17	2,849	-0.09	2,849	0.25
15. 物事は理屈通りにはならない	2,849	0.74	2,849	0.80	2,849	1.02
16. 様々なことに挑戦する	2,849	0.43	2,849	0.47	2,849	1.36
17. 忍耐強い	2,849	0.96	2,849	1.22	2,849	1.30
18. 競争心をもつ	2,849	0.36	2,849	0.35	2,849	0.66
19. ゆったりとくまえる	2,849	0.46	2,849	0.49	2,849	1.14
20. 自分の思いを率直にあらわす	2,849	0.50	2,849	0.65	2,849	1.08
21. 物事に対してイメージを豊かにしてみる	2,849	0.15	2,849	0.34	2,849	1.27
22. 問題から逃げずに、誠実に対応する	2,849	0.84	2,849	0.93	2,849	1.42
23. 人との調和を重んじる	2,849	0.86	2,849	1.12	2,849	1.45
24. 正しいと信ずることは妥協しない	2,849	0.88	2,849	0.78	2,849	0.90
25. 自分の限界を知る	2,849	0.36	2,849	0.39	2,849	0.58
26. 誇りを持って生きる	2,849	0.96	2,849	0.91	2,849	1.35
27. 自分の信念をつらぬく	2,849	0.94	2,849	0.79	2,849	1.12
28. 夢をもつ	2,849	0.69	2,849	0.72	2,849	1.59
29. ユーモアがある	2,849	0.52	2,849	0.63	2,849	1.44
30. 経済的・精神的・生活面において自立する	2,849	1.21	2,849	1.12	2,849	1.56
31. 性別で人を差別をしない	2,849	0.69	2,849	0.87	2,849	1.53
32. 人の弱さや痛みを気づかうことができる	2,849	0.95	2,849	1.27	2,849	1.71
33. 人の気持ちがかかる	2,849	0.79	2,849	1.14	2,849	1.66
34. 地域や家の習わしを大切にする	2,849	0.69	2,849	0.82	2,849	0.63
35. 子どもとの暮らしを大切にする	2,849	0.83	2,849	1.23	2,849	1.55
36. 家族の支え合い・協力を大切にする	2,849	0.85	2,849	1.23	2,849	1.65
37. 配偶者（パートナー）との関係を大事にする	2,849	0.75	2,849	0.94	2,849	1.61
38. 自分の子どもを慈しむ	2,849	1.13	2,849	1.42	2,849	1.70
39. 自分の親を大切にする	2,849	1.25	2,849	1.47	2,849	1.59

表7 親の生き方や態度と、次世代に大切にしたい生き方の相関

\* 対象全体の男性の相関係数

男 性	父親の生き方	母親の生き方	次世代に願う生き方
父親の生き方	1	0.9132	0.7672
母親の生き方		1	0.7543
次世代に願う生き方			1

\* 対象全体の女性の相関係数

	父親の生き方	母親の生き方	次世代に願う生き方
父親の生き方	1	0.9152	0.7535
母親の生き方		1	0.7993
次世代に願う生き方			1

\* 育ったきた家庭に不満も持っている群の男性の相関係数

	父親の生き方	母親の生き方	次世代に願う生き方
父親の生き方	1	0.7685	0.1930
母親の生き方		1	0.3576
次世代に願う生き方			1

\* 育ったきた家庭に不満も持っている群の女性の相関係数

	父親の生き方	母親の生き方	次世代に願う生き方
父親の生き方	1	0.7796	0.1607
母親の生き方		1	0.4261
次世代に願う生き方			1

\* 育児負担群の男性の相関係数

	父親の生き方	母親の生き方	次世代に願う生き方
父親の生き方	1	0.8636	0.6029
母親の生き方		1	0.5377
次世代に願う生き方			1

\* 育児負担群の女性の相関係数

	父親の生き方	父親の生き方	次世代に願う生き方
父親の生き方	1	0.7970	0.5015
母親の生き方		1	0.5970
次世代に願う生き方			1

図 1 1 子どものからだの心配事

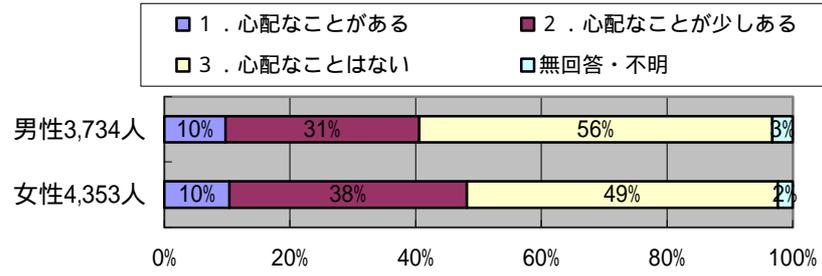


図 1 2 子どものこころや行動の心配事

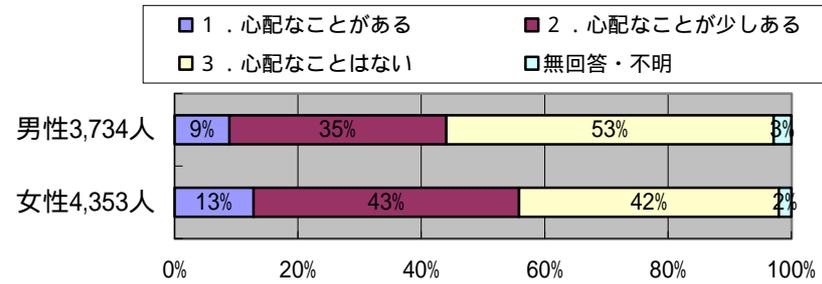


図 1 3 その他、子どもの生活に関する心配事

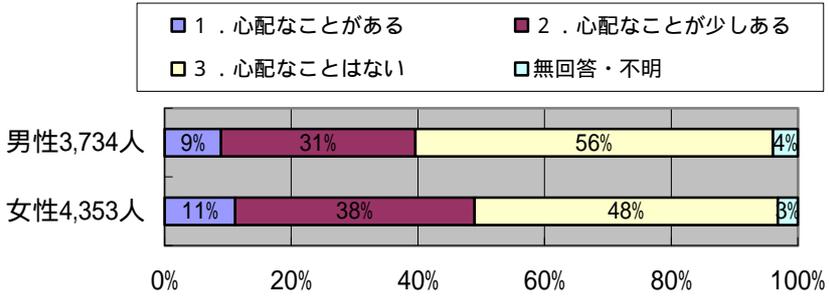


図2 子どもへの関わり方（男性3,734人・女性4,353人）

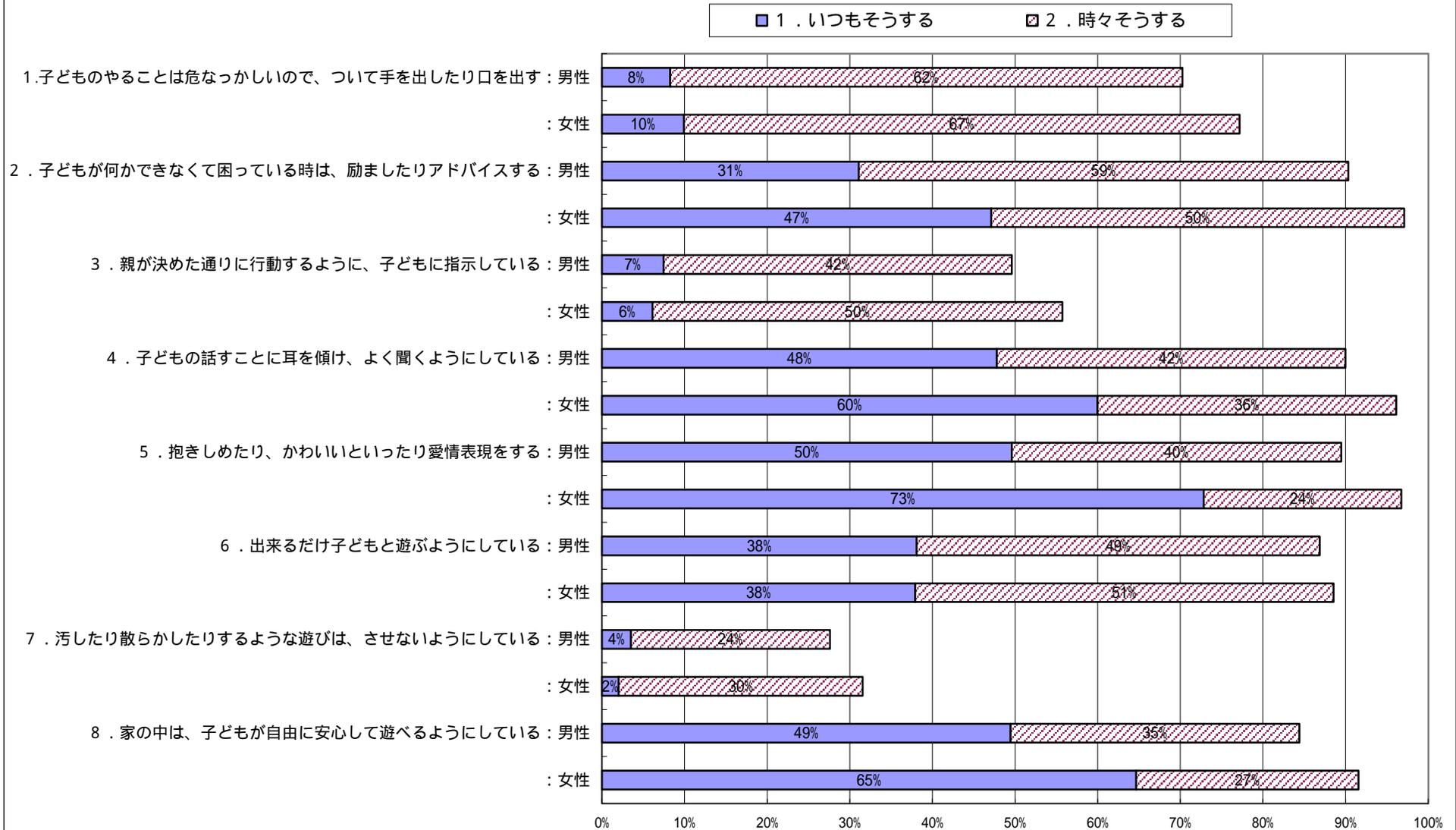


図3-1 子どもと過ごしている時の肯定的感情  
(男性3,734人・女性4,353人)

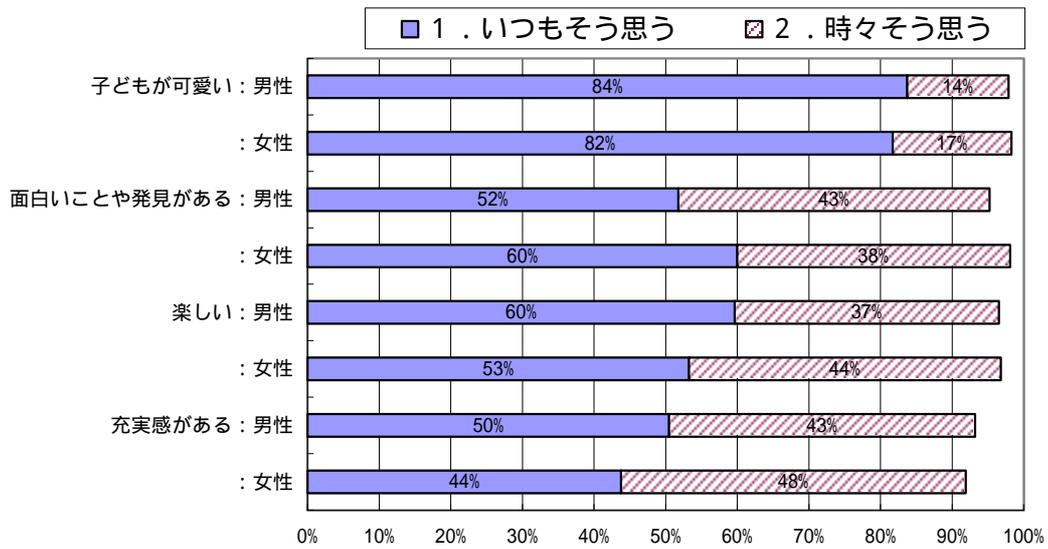


図3-2 子どもと過ごしている時の否定的感情  
(男性3,734人・女性4,353人)

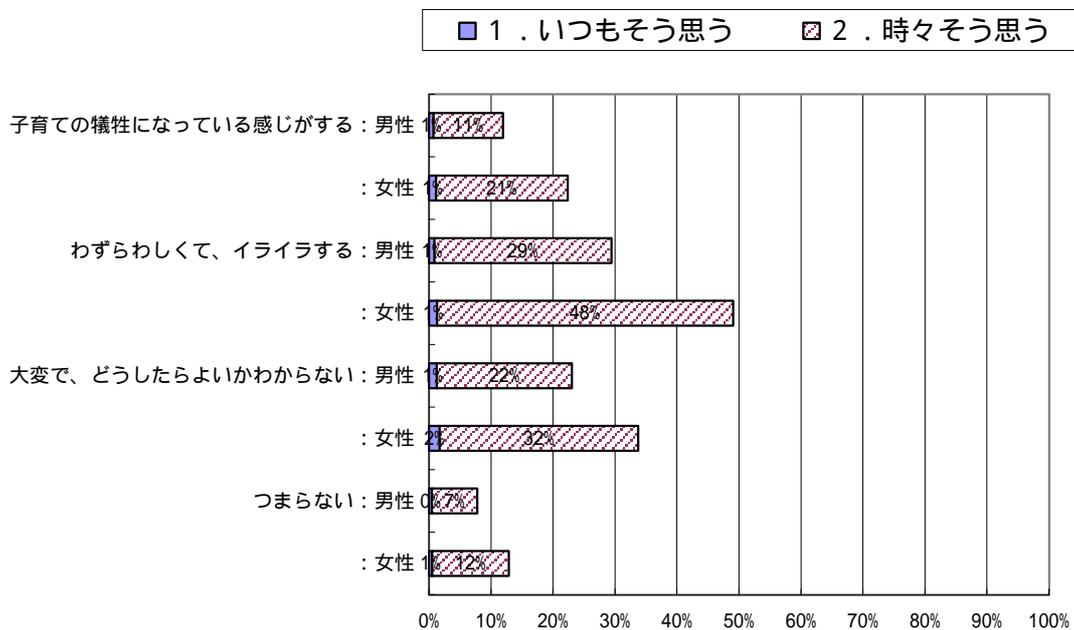
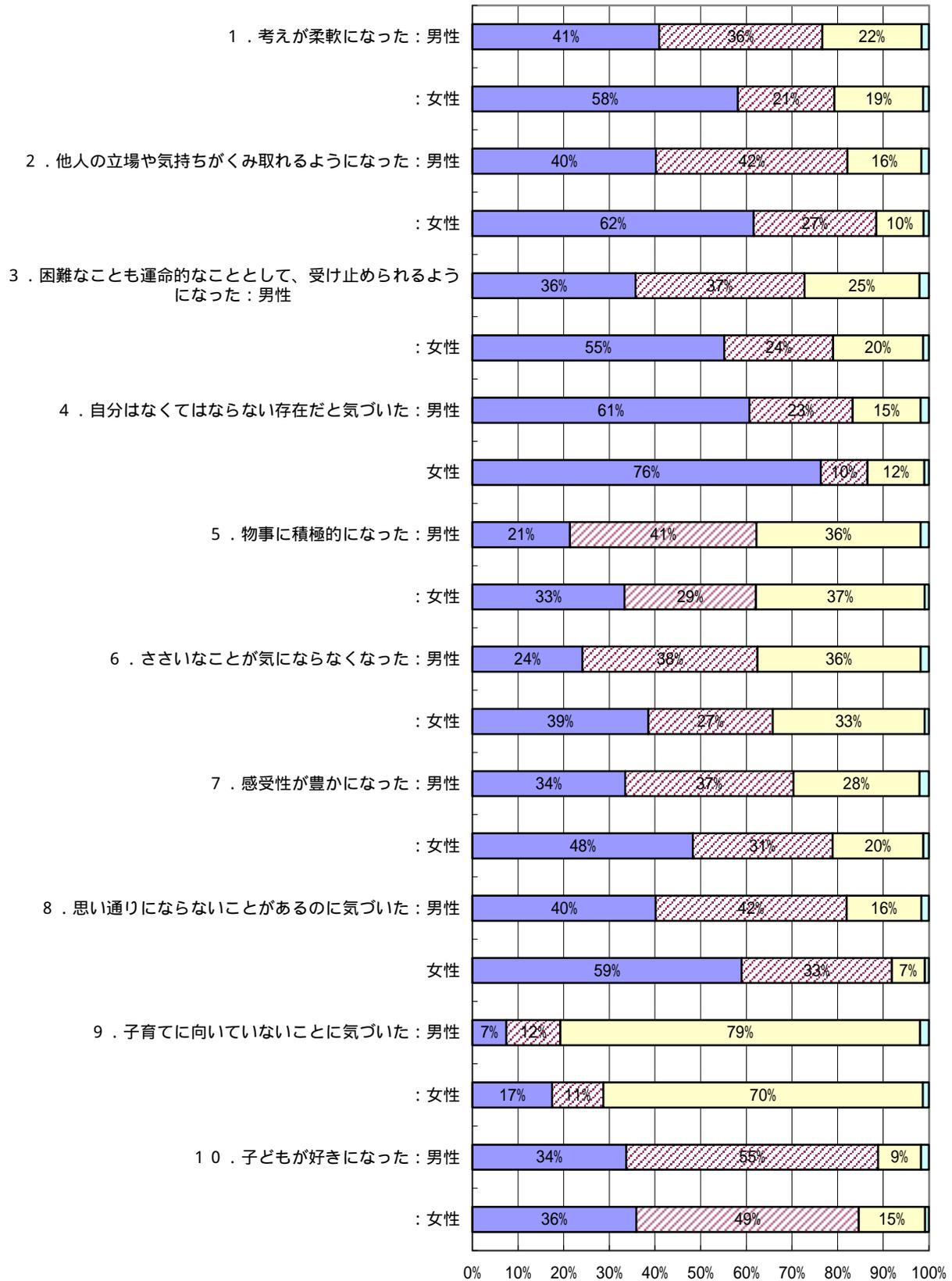


図4 子育てをしてからの自分自身の変化（男性 3,734人・女性 4,353人）

■ 1. そう思う    ▨ 2. 以前からそうなので、変わらない    □ 3. そう思わない    ◻ 無回答・不明



## 「子育てに関するアンケート調査」のお願い

近年、わが国では生まれてくる子どもの数が減っております。私たちは、少子化傾向は「社会全体の次世代を生き育てる力」の問題にとらえ、少子社会における子育て支援の方向性をみつけることを目的に調査研究をしております。

「次世代を生き育てる力」は、個人―家庭―地域さらに社会全体に必要であります。どのような要素が必要であるのか、その内容については十分に検討されておられません。そこで、子育て中の親ごさんを対象に、＜親子の生活・育児環境＞などをうかがい、今必要とされている「次世代を生き育てる力」とは何かを明らかにする目的で、調査を計画いたしました。

調査項目の中には個人的なことも含まれていますが、ご回答の取り扱いには慎重を期し、コンピュータにより統計的に処理いたしますので、プライバシーに関するご迷惑はおかけいたしません。

どうぞよろしく、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

1998年12月

厚生省厚生科学研究「少子化についての専門的研究」

分担研究「社会環境が結婚・出産・育児に及ぼす影響に関する研究」

分担研究者 高野 陽（日本子ども家庭総合研究所母子保健研究部長）

### 〈お問い合わせ先〉

〒106-8580東京都港区南麻布5-6-8 日本子ども家庭総合研究所 母子保健研究部  
(留守電&ファクス) 03-3442-1193 担当者 斎藤幸子  
(代表電話) 03-3473-8311

\*はじめにお読みください

1 調査対象

乳・幼児の父母

2 調査内容

[1] あなたご自身について

[2] お子さんとの生活

[3] 日常生活

[4] あなたとあなたの親ごさんとの現在の関係

[5] あなたが育ってこられた頃のことについて

[6] あなたの親ごさんが大切にしていたと思う生き方や態度について

あなたが次世代に望む生き方や態度について

3 記入の方法

・以下の設問で、あなたに当てはまる選択肢の番号に○印をつけてください。

・（ ）などの空欄には該当する内容をご記入ください。

4 記入上のご留意点

・質問によっては、お答えいただく方が限定される場合がありますので、矢印や< >内の説明にご注意ください。

・「結婚」や「お子さん」については、特に定義しておりませんので、回答者ご自身のお考えでご回答ください。

設問中では、結婚の相手のことは「配偶者またはパートナー」としました。

3 調査票の回収方法

・ご記入済みの調査用紙は右端をシールで封緘し、無記名で世帯ごとの封筒に入れて、担当者の指示する方法に従って期日までにご提出ください。



**[2] お子さんとの生活についてうかがいます。**

1. お子さんは何人いますか…………… (            ) 人
  
2. お子さん(達)の年齢は、次の項目のどれに当てはまりますか。すべてのお子さんについて、○印をつけてください。  
もし、お子さん2人以上が同じ項目になる場合は、当てはまる番号1つに○印をつけてください。
  1. 2歳未満      2. 2歳～4歳未満      3. 4歳から就学前      4. 小学生      5. 中学生
  6. 高校          7. その他
  
3. お子さん(達)の健康状態はいかがですか。当てはまる番号に○印をつけてください。
  1. 健康      2. 病気がち      3. 長期にわたる医療や支援が必要
  
4. お子さん(達)のことで心配ことがありますか。下記の項目それぞれについて、当てはまる選択肢の番号に○印をつけてください。
  - 4-1. からだのこと……………
    1. 心配なことがある      2. 心配なことが少しある
    3. 心配なことはない
  - 4-2. こころや行動のこと……
    1. 心配なことがある      2. 心配なことが少しある
    3. 心配なことはない
  - 4-3 その他、生活上のこと …
    1. 心配なことがある      2. 心配なことが少しある
    3. 心配なことはない
  
5. あなたは日頃、お子さん(乳・幼児)にどのように関わっていますか。下記の項目それぞれについて、当てはまる選択肢の番号に○印をつけてください。

\*乳・幼児のお子さんについて

	1. いつも そうする	2. 時々 そうする	3. あまり そうしない	4. しない
1. 子どものやることは危なっかしいので、つい手を出したり口を出す	1	2	3	4
2. 子どもが何かができなくて困っている時は、励ましたりアドバイスする	1	2	3	4
3. 親が決めた通りに行動するように、子どもに指示している	1	2	3	4
4. 子どもの話すことに耳を傾け、よく聴くようにしている	1	2	3	4
5. 抱きしめたり、かわいいといったり愛情表現をする	1	2	3	4
6. 出来るだけ子どもと遊ぶようにしている	1	2	3	4
7. 汚したり散らかしたりするような遊びは、させないようにしている	1	2	3	4
8. 家の中は、子どもが自由に安心して遊べるようにしている	1	2	3	4

6. あなたは普段の生活で、お子さん(乳・幼児)と過ごしている時どのようなお気持ちですか。下記の項目それぞれについて、当てはまる選択肢の番号に○印をつけてください。

	1. いつも そう 思う	2. 時々 そう 思う	3. あまり そう 思わ ない	4. そう 思わ ない
*お子さんと過ごしていて				
1. 充実感がある	1	2	3	4
2. 楽しい	1	2	3	4
3. 面白いことや発見がある	1	2	3	4
4. 子どもが可愛い	1	2	3	4
5. つまらない	1	2	3	4
6. 大変で、どうしたらよいかわからない	1	2	3	4
7. わずらわしくて、イライラする	1	2	3	4
8. 子育ての犠牲になっている感じがする	1	2	3	4



< 8. で犠牲になっている感じがする方にうかがいます。 >

SQ6-1 犠牲についてどのように思いますか。下記の中で当てはまるもの1つに○印をつけてください。

1. 犠牲感はあるが、苦にならない。
2. しかたがないと思うので、がまんしている。
3. 育児をすることはもう限界にきている。
4. その他 ( )

SQ6-2 どのようなことが犠牲になっていると感じますか。いくつでも○印をつけてください。

1. 仕事や学業
2. 趣味や娯楽
3. 自由や気楽さ
4. 配偶者(パートナー)との関係
5. その他 ( )

7. あなたは子育てをしてからの自分自身をどのように感じていますか。下記の項目それぞれについて、当てはまる選択肢の番号に○印をつけてください。

	1. そう 思う	2. 以前 から で そう な ら な い 変 わ ら な い	3. そ う 思 わ な い
*子育てをしてから私は			
1. 考えが柔軟になった	1	2	3
2. 他人の立場や気持ちがくみ取れるようになった	1	2	3
3. 困難なことも運命的なこととして、受け止められるようになった	1	2	3
4. 自分ではなくてはならない存在だと気づいた	1	2	3
5. 物事に積極的になった	1	2	3
6. ささいなことが気にならなくなった	1	2	3
7. 感受性が豊かになった	1	2	3
8. 思い通りにならないことがあることに気づいた	1	2	3
9. 子育てに向いていないことに気づいた	1	2	3
10. 子ども好きになった	1	2	3

8. あなたがお子さんをもつ理由をうかがいます。下記の項目それぞれについて、当てはまる選択肢の番号に○印をつけてください。

1. 子どもを生み育てることは、よい経験だと思うので…………… 1 はい 2 いいえ
2. 子どもを生み育てることは、男としてまたは女としての、  
自分の存在感が感じられるので…………… 1 はい 2 いいえ
3. 子どもに継承したいもの（技能や伝統など）があるので…………… 1 はい 2 いいえ
4. 子どもは楽しみやうるおいを与えてくれるので…………… 1 はい 2 いいえ
5. 子どもは活気があるので…………… 1 はい 2 いいえ
6. 子どもはほしくないが、大人として認められたかったので…………… 1 はい 2 いいえ
7. その他（ ）

9. あなたは、全部で何人のお子さんを生む予定ですか。現在のお子さんも含めた人数でお答えください。

例：現在、2人の子どもがいるが、もう1人生む予定の場合は、(3)人の予定とご記入下さい。

( )人の予定

10. あなたは本当は、全部で何人のお子さんがほしいと思いますか。

1. 本当はいらない
2. ( )人ほしい

[3] 日常生活のことについてうかがいます。

<次の1. 2. の設問は、乳・幼児のお子さんについてうかがいます>

1. 日中、お子さん(乳・幼児)の世話を主にしている方はどなたですか。○印はいくつでも、つけてください。

1. あなた自身
2. 配偶者(パートナー)
3. 祖父母(自分またはパートナーの親)
4. 1～3以外の家族や親族
5. 保育者(保育園や家庭福祉員)
6. 幼稚園の先生
7. ベビーシッター
8. 友人・知人
9. その他( )

2. あなたがお子さん(乳・幼児)の世話を一時的にできない時、どなたに世話を頼みますか。

○印はいくつでもつけてください。

1. 配偶者(パートナー)
2. 祖父母(自分または配偶者・パートナーの親)
3. 1～2以外の家族や親族
4. 保育園の一時的保育サービス
5. 幼稚園の延長保育
6. ベビーシッター
7. 友人・知人
8. その他( )
9. 頼める人がいない



<親ごさんから経済的援助を受けている方にうかがいます>

受けていない方は、3へお進みください。

SQ2-1 親ごさんからの援助を受けられて、あなたの生活はいかがですか。

1. 助かっている      2. 変わらない

SQ2-2 親ごさんから経済的援助を受けていることについて、あなたはどのように思っていますか。

AとBそれぞれ当てはまる選択肢の番号1つに○印をつけてください。

A. 親ごさんに対して

1. 親として普通のことをしてきている（当たり前）  
2. 親が喜んでやってくれているので、いいと思う  
3. 親に申し訳ないと思う  
4. その他（                      ）

B. 自分自身の気持ち

1. 将来、親の世話や援助をするのだからこれでいいと思う  
2. 現状ではやむを得ない  
3. 自立できないので、残念（不甲斐ない）  
4. その他（                      ）

3. 親ごさんからの、経済以外の援助（世話など）についてうかがいます。

あなたは親からあなた（またはあなたの家族）の身のまわり世話など、家事や育児を助けてもらっていますか。

1. はい      2. いいえ



<親ごさんから世話などの援助を受けている方にうかがいます>

援助を受けていない方は、次ページ4へお進みください。

SQ3-1 親ごさんから世話などの援助を受けられて、いかがですか。下記の項目で、それぞれ当てはまる  
選択肢の番号1つに○印をつけてください。

1. 身体的に……… 1. 助かっている      2. 変わらない  
2. 精神的に……… 1. 助かっている      2. 変わらない  
3. 経済的に……… 1. 助かっている      2. 変わらない

SQ3-2 親ごさんから世話などの援助を受けていることについて、あなたはどのように思っていますか。

AとBそれぞれ当てはまる選択肢の番号1つに○印をつけてください。

A. 親ごさんに対して

1. 親として普通のことをしてきている（当たり前）  
2. 親が喜んでやってくれているので、いいと思う  
3. 親に申し訳ないと思う  
4. その他（                      ）

B. 自分自身の気持ち

1. 将来、親の世話や援助をするのだからこれでいいと思う  
2. 現状ではやむを得ない  
3. 自立できないので、残念（不甲斐ない）  
4. その他（                      ）

4. あなたは現在、親ごさんにどのような援助をしていますか。

- |                               |       |        |
|-------------------------------|-------|--------|
| 1. 経済的（金銭的、物質的）に助けている .....   | 1. はい | 2. いいえ |
| 2. 親の心配事などを聞き、精神的に助けている ..... | 1. はい | 2. いいえ |
| 3. 家事を引き受け、日常生活を助けている .....   | 1. はい | 2. いいえ |
| 4. 看病や介護などの世話をしている .....      | 1. はい | 2. いいえ |

<次の設問5では、あなたご自身の親ごさんについてお答えください>

5. あなたとあなた自身の親ごさんとの現在の日常的な関わりについてうかがいます。ご両親それぞれについて当てはまる選択肢の番号1つに○印をつけてください。

	父親				
	1. 当てはまる	2. やや当てはまる	3. あまり当てはまらない	4. 当てはまらない	5. 非該当
*父親について					
1. 私は父に愚痴や心配事を聞いてもらう	1	2	3	4	5
2. 私は行動を決める場合に、父にアドバイスしてもらう	1	2	3	4	5
3. 父は、私の行動には口を挟まないが、気遣ってくれている	1	2	3	4	5
4. 父は、私に何をなすべきか・どのようにすべきかを指示している	1	2	3	4	5
5. 父は、相談事をもちかけたり愚痴を言ったりして、私を頼っている	1	2	3	4	5

	母親				
	1. 当てはまる	2. やや当てはまる	3. あまり当てはまらない	4. 当てはまらない	5. 非該当
*母親について					
1. 私は母に愚痴や心配事を聞いてもらう	1	2	3	4	5
2. 私は行動を決める場合に、母にアドバイスしてもらう	1	2	3	4	5
3. 母は、私の行動には口を挟まないが、気遣ってくれている	1	2	3	4	5
4. 母は、私に何をなすべきか・どのようにすべきかを指示している	1	2	3	4	5
5. 母は、相談事をもちかけたり愚痴を言ったりして、私を頼っている	1	2	3	4	5

[5] あなたが育ってこられた頃のことをうかがいます。

<親ごさんが早くに亡くなったなど、わからない場合は、各項目で非該当に○印をつけてください。>

1. あなたは中学卒業後、親ごさんと1年間以上離れて一人で暮らしたことがありますか。

○印を1つつけてください。

1. 経験がある    2. 経験がない    3. 非該当



SQ 1-1 はじめて親と離れて暮らしたのは、何歳ごろでしたか。

1. 15～19歳    2. 20～24歳    3. 25～29歳    4. 30歳～

SQ 1-2 それは何年間くらいでしたか。

1. 1年未満    2. 1～3年未満    3. 3年以上

2. あなたが小学・中学校の頃に、あなたのご両親のどちらかが仕事の関係などで、長期間不在だったことがありますか。

1. 不在だったことはなかった

2. 父が不在だった    ➡    SQ 2-1 小・中学校を通して何年間くらいですか。

1. 1年未満    2. 1～3年未満    3. 3年～

3. 母が不在だった    ➡    SQ 2-2 小・中学校を通して何年間くらいですか。

1. 1年未満    2. 1～3年未満    3. 3年～

4. 非該当

3. あなたが育ってこられたご家庭について、現在どのように感じていますか。

1. 満足している  
2. やや満足している  
3. やや不満である  
4. 不満である  
5. 非該当

4. あなたは将来、育ってこられたご家庭のような家庭を築いていきたいと思いませんか。

1. そう思う  
2. やや思う  
3. やや思わない  
4. そう思わない  
5. 非該当

[6] A. あなたの親ごさんはどのような生き方や態度を大切にしていたと思いますか。A欄に父母別にお答えください。  
 B. あなたは次の世代に、どのような生き方や態度を大切にしたいと思いますか。B欄にお答えください。



<親ごさんが早くに亡くなったなど、分からない場合は、その親ごさんについては空欄にしてください。>

	A あなたの親ごさんは										B あなたから次の世代へ				
	あなたの父親					あなたの母親					1. よく当てはまる	2. やや当てはまる	3. どちらともいえない	4. あまり当てはまらない	5. 全く当てはまらない
	1. よく当てはまる	2. やや当てはまる	3. どちらともいえない	4. あまり当てはまらない	5. 全く当てはまらない	1. よく当てはまる	2. やや当てはまる	3. どちらともいえない	4. あまり当てはまらない	5. 全く当てはまらない					
1. 不正や悪いことを許さない	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2. 自分の言動に責任をもつ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3. お金が大切	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4. 生活は楽しく	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5. 理想を持って生きていく	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6. 現実を重視し、成果を上げる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
7. 成り行きにまかせる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8. 仕事は生活のためにする	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
9. 仕事に生きがいがある	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
10. 信仰心を大事にする	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
11. 一日一日を大切に生きていく	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
12. 視野の広い考え	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
13. 無駄な考えや行動をしない	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
14. 論理的思考が大切	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
15. 物事は理屈通りにはいかない	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
16. 様々なことに挑戦する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
17. 忍耐強い	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
18. 競争心をもつ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
19. ゆったりとかまえる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
20. 自分の思いを率直にあらわす	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
21. 物事に対してイメージを豊かにしてみる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
22. 問題から逃げずに、誠実に対応する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
23. 人との調和を重んじる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
24. 正しいと信ずることは妥協しない	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
25. 自分の限界を知る	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
26. 誇りを持って生きる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
27. 自分の信念をつらぬく	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
28. 夢をもつ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
29. ユーモアがある	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

	A あなたの親ごさんは										B あなたから次の世代へ				
	あなたの父親					あなたの母親					1.	2.	3.	4.	5.
	1.	2.	3.	4.	5.	1.	2.	3.	4.	5.					
30. 経済的・精神的・生活面において自立する	1. よく当てはまる	2. やや当てはまる	3. どちらともいえない	4. あまり当てはまらない	5. 全く当てはまらない	1. よく当てはまる	2. やや当てはまる	3. どちらともいえない	4. あまり当てはまらない	5. 全く当てはまらない	1. よく当てはまる	2. やや当てはまる	3. どちらともいえない	4. あまり当てはまらない	5. 全く当てはまらない
31. 性別で人を差別しない	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
32. 人の弱さや痛みを気づかうことができる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
33. 人の気持ちが分かる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
34. 地域や家の習わしを大切にする	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
35. 子どもとの暮らしを大切にする	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
36. 家族の支え合い・協力を大切にする	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
37. 配偶者(パートナー)との関係を大事にする	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
38. 自分の子どもを慈しむ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
39. 自分の親を大切にする	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

\*\*\* ご協力ありがとうございました \*\*\*

\*最後に、子育て・家族などについて、日頃感じていらっしゃるなどおありでしたら、以下にご自由にお書きください。行政や社会への要望も歓迎いたします。

THANK  
YOU!